

明治二十年三月七日寄贈

今田昂德烈譯



# 聖略傳

明治十六年七月 正教會

諸聖略傳第二卷目錄

二月之部

一日我等ノ父成徳ハ捧神者大ニシ

フミナノ傳

六十八

二成徳ハ表信致命者アキシハ

傳

十五

三聖使徒テイモフエノ傳

廿六

四アキキラノ主教神品致命者聖シ

傳

廿七

五アキキラノ傳

廿八

諸聖略傳第二卷目錄

同 ノルノ聖ウリンノ紀念

卅五

五 聖女キセニヤノ紀念

卅七

六 我等ノ父神學者聖グリゴリイノ

卅八

傳

七 成徳ナルクセノフオント其ノ妻マ

二 リヤ及ヒ二子イオアン、アルカデ

イノ傳

六十八

八 聖金口イオアンノ聖軀遷座祭

九十

九 我等ノ父成徳ナルエフレムシリ

九十一

聖金口イオアンノ傳

十 聖ナルノ閉戸者成徳ナルラウレ

同

十一 聖大ワシリイ神學者グリゴリイ

百八

十二 金口イオアンノ三大主教ノ合祭

同

十三 奇蹟行爲者清廉ナル醫士聖キ

ル、イオアン及ヒ致命女聖アフアナ

百九

シヤ及ヒ其ノ三女ノ苦難

十三 聖致命者トリフォンノ苦難

百十四

同 聖致命女ペルペトア及ヒフユリキ

百廿七

十四 タタノ苦難

十四 主ノ迎接及ヒ接神者シメオン及

十五 預言女アシナノ紀念

十六 成徳キルイシドルベルシオトノ

紀念

同 聖ニコライノ紀念

十七 聖教命女アガフヤノ苦難

十八 聖教命女ドロフヤノ苦難

同 以ミルナノ主教聖ワコルノ紀念

十九 ラムアサツノ主教成徳ナルバル

同 フニコイノ紀念

百卅六

百四十一

百四十五

百四十六

百五十八

百七十四

同

同 エルラダノ人成徳ナルルカノ紀

廿八 念 聖大教命者フエオトルストラテラ

廿九 聖大教命者フエオトルストラテラ

十ノ苦難

廿一 聖教命者ニキホルノ苦難

廿二 マツネシヤ城ノ主教神品致命者

廿六 聖ハルラムピイノ紀念

廿三 神品致命者聖ウラシイノ紀念

廿四 アシナオヒヤ城ノ大主教聖メレ

同 聖イノ傳

百七十五

百七十六

百九十

百九十八

同

二百十

同 全ロシノ奇蹟行爲者キエフ府 二百廿四

府主教聖アレキセイノ傳 二百廿四

廿五成徳ナルマルティアンノ紀念 二百四十五

廿六成徳ナルアウクセンタイノ紀念 二百四十六

同ニペテナルノ閉戸者成徳ナルイサキ

及ヒスラワンノ教化者成徳ナ

ルキリールノ紀念 二百四十七

廿七聖使徒チヨシムノ傳 二百四十八

廿八聖致命者司祭バムフィル輔祭ワレ

ソト、パワエル、ボリスリイ及ヒ彼等

ト借ニ難ヲ受ケシ諸聖致命者ノ

紀念 二百五十五

廿九成徳ナルロマノカッシアンノ紀念 二百六十四

二月之部目錄終

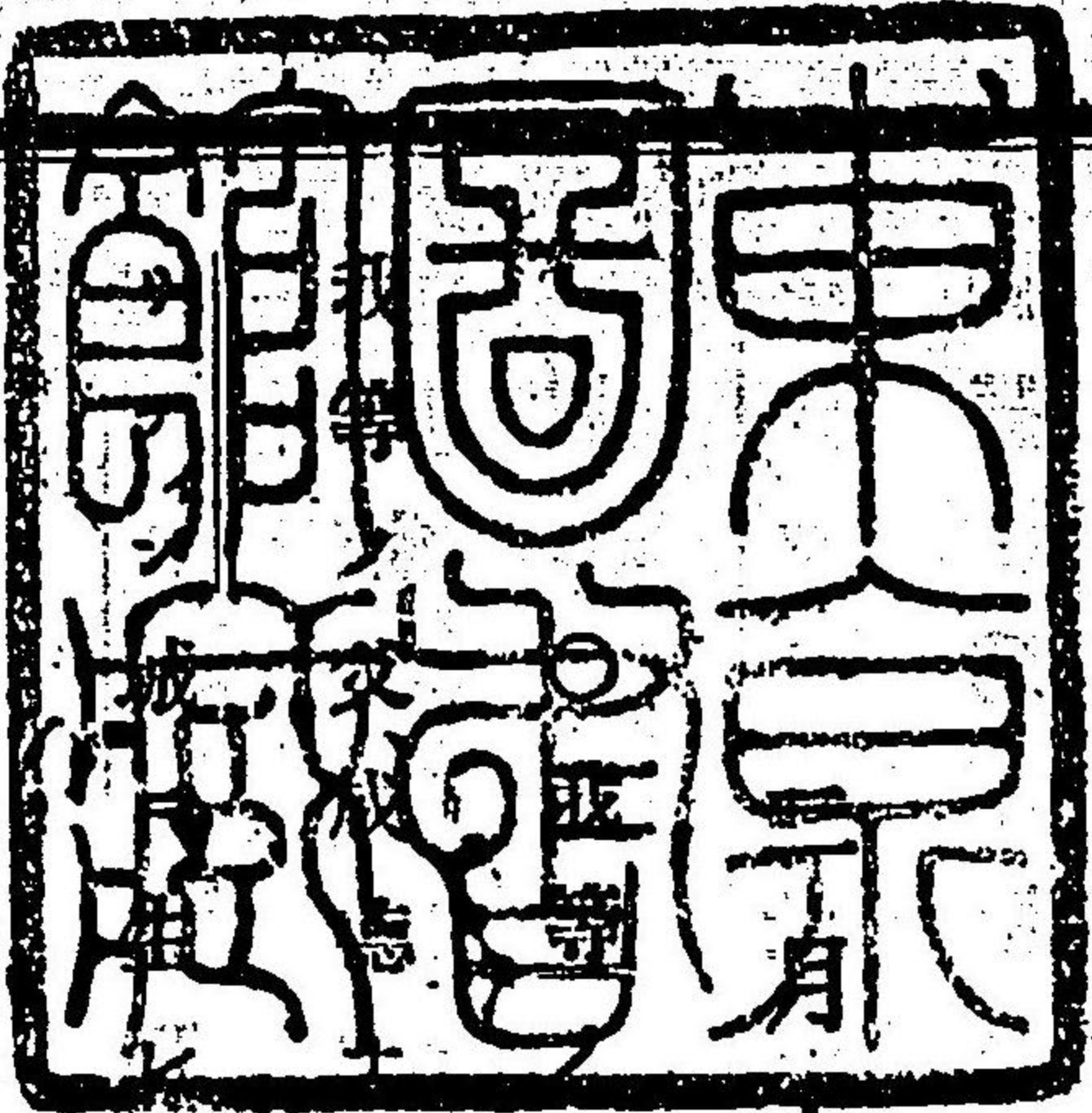
諸聖略傳第二卷

墨斯科巴弗米估瓦編輯

諸聖略傳第二卷

墨斯科巴弗米估瓦編輯

仙臺 今田昂徳烈 譯



之部

父成徳大ル捧神者大エウファミイノ傳一日

ルエウファミイハ大約第五世代ノ半ノ頃

タリ初メ其ノ父母ハ久シク子ナカリシガ

子ナ生ケニ及テ主ニ獻ズルヲサ誓ヒシユヘエウファミイノ

教育ヲ以テ聖役者ニ托シタリ斯ノ故ニメリライノ主教ハ

カヲ尽シテエウファミイヲ教育シ次テエウファミイヲ立テ司

祭トナシ委任シテメリテイシ城ノ修道院ニ監督セシメタリ  
エウフィミイ修道ノ身生チ好ミ寂漠閑静ノ地ニ住マント欲  
シテ二十九歳ノ時イニエルサリムニ程近キフアンズク(此ハ  
聖ハリトシガ強盗ノ手ヨリ免カレシ洞穴ノ上ニ營ナミタ  
ル修道院ナリ聖ハリトシノ傳チ(九月)參看ス可シ)ノ修道院  
ニ属セル荒野ノ隱舎ニ入りタリ此所ニエウフィミイハフエオ  
クテイストト云ヘル一人ノ修士ト交チ結ヒテ相親睦シ與ニ  
勤勞ヲ爲シ恒ニ禁食祈禱ノ嚴肅ナル行ヲ修メ以テ神ニ悅  
ハレンコトナガメ而シテ四旬齋期ノ聖日ノ間ハ二人共ニ野ニ  
避ケ禁食祈禱セリ(昔時多クノ功德者ハ四十日ノ間、主イ、

ス、ハリストスガ野ニ禁食スルノ例ニ倣ヒ一月廿六日ヨ  
リ己ノ修道院ヲ出テ花若シクハ枝ノ主日マテ野ニ在リテ  
禁食スルノ風アリ)

成徳ナルエウフィミイ及ビフエオクテイストノ二人ハ固ヨリ  
然孤棲セント欲シ或ル日、野ニ吟フ時、溪水ヲ望ミシニ一ノ  
嗟峨タル岩石ノ間ニ洞穴アリテ猛獸ノ巢窟ナルヲ見テ大  
ニ喜ビ遂ニ心ヲ決シ此所ニ遷レタリ二人ハ此所ニ遷レタ  
ル後、幾バクナグツ人々ニ知ラレケレバ「フアンズク」修道院  
ノ修士及ヒ他ノ虔敬ナル人々來リテ其ノ勸訓ヲ受ケント  
セリ并ハ成徳ナルエウフィミイハ曾テ修道院ニ在リシ時ヨ

リ其ノ智慧ノ深キト善行トヲ以テ著<sup>アラ</sup>ハレフェオクテイストモ  
 エウフィミイニ次テ著名<sup>イナシ</sup>ナリケレバナリ衆人遂ニ其ノ門ニ  
 集リ洞穴ニ聖堂ヲ建テエウフィミイハ掌院トナリ兄弟等皆  
 己ノ心中ヲ吐露シ其ノ教訓ヲ請ヒシカバエウフィミイハ最<sup>イ</sup>  
 ト深妙ナル教訓ヲ爲シ其ノ信向ヲ堅メ益々救ノ道ニ向ハ  
 シメタリ  
 一日聖エウフィミイ衆ニ教ヘテ曰ク救主謂ヘリ警<sup>レ</sup>醒<sup>レ</sup>祈<sup>レ</sup>禱<sup>セ</sup>  
 ヲ誘<sup>レ</sup>惑<sup>レ</sup>入<sup>ル</sup>ヲ免<sup>ル</sup>ハナリト兄弟ヨ常ニ此ノ聖ナル言ヲ  
 忘ル、<sup>ト</sup>勿<sup>レ</sup>世累ヲ捨ツル者ハ必ズ己レニ克<sup>テ</sup>從<sup>テ</sup>順<sup>テ</sup>謙<sup>テ</sup>遜<sup>テ</sup>  
 ニシテ常ニ死期ト公審判ノ日ヲ忘ル可カラズ虔敬ニシテ

業ヲ營<sup>ミ</sup>假<sup>シ</sup>令<sup>ニ</sup>一日タリトモ空シク光陰ヲ送り他人ノ勞苦  
 シテ得ル所ノ者ヲ徒食スヘカラズトエウフィミイガ聰明ニ  
 ノ行爲ノ潔ヨキ風聞、日ニ高ク月ニ揚リケレバ來リテ教ヲ  
 受テントスル者日々ニ多クメ或ハ庵ヲ修道院ノ傍ニ結ビ  
 シカバ此ノ修道院ハ遂ニ著明ナルニ至リタリ茲ニ一事ア  
 リ特ニ此ノ修道院ヲ名譽ヲ得セシメタリ其ノ由來ヲ尋  
 ヌルニベルシヤノ一貴族ニアスベラエト呼ヘル者アリ其  
 子、會々病篤シアスベラエト初メベルシヤノ將軍タリシガ國  
 王ガ「ハリステアヨン」ヲ審逐スル時他ノ將軍等ト偕ニ「ハリ  
 ステアアニン」ヲ索ソ搜シテ之ヲ諭シ之ヲ嚙噬スルモ其偶像



ナ拜セザルモノハ昔死刑ニ行フ可シト嚴命ヲ受ケタリ、然  
 レトアスベウエトハ素ト温厚徳實ノ人ナレバ「ハリスタイアニ  
 シ」ノ審逐セラレ、ナ見ルニ忍ビズシテ多クノ冤罪者ヲ追  
 捕者ノ手ヨリ救ヒタリシガ开ガ爲ニ王ノ怒ニ觸レ途ニペ  
 ルシヤヲ放逐セラレタリグレチヤ國帝之ヲ納レ立テ、其ノ  
 屬國ナル「サラチン」支族ノ主領トナシタリ神ハアスベウエトノ  
 慈仁ノ心ヲ賞メ之ニ救ノ道ヲ示シ玉ヘリ先ニ云ヘシ如ク  
 アスベウエトノ子、疾、篤シシテ半身枯槁シケレバ其父ハ國手  
 ナ招キ治療ヲ乞シカバ醫ハ方術ヲ尽セシモ其ノ効ナキ故  
 ペルシヤノ智者、博士ヲ神ノ佑ヲ乞ハシムルモ亦皆効ナ

クノ其ノ子テレウオンノ苦ミハ快癒ナラザリキ  
 久シク病苦ノ中ニ苦ミシテレウオン或ル日、自ラ已レテ願ミ  
 テ曰ク我が疾ハ何ノ時カ癒ユベキヤグレチヤペルシヤノ  
 醫士ハ何ヲ爲スヤ我等ノ智者、博士ハ何者ア我等ノ諸神ノ力  
 ハ何所ニアルヤ是レ皆偽詐空虚ナリ嗚呼又何ヲカ善クセ  
 ノ獨リ全能ノ眞神アリテ我ヲ佑グルニアアズンバ我が疾  
 ハ豈ニ癒ルノ期アラシヤト且ツ長歎息ノ曰ク天地ヲ創造  
 セシ威徳赫々タル大ナル神ヨ我が靈ヲ憐ミ我ヲ疾病ヨリ  
 救ヒ玉ヘト斯ク祈禱シ心身、共ニ疲レテ遂ニ睡リシガ忽然、夢  
 ニ修士ニシテ黒衣ヲ着タル一ノ老父アリ半白ノ長髯ヲ披テ

之ニ何ノ爲メニ困シムヤ」ト問ケレバ「テレウオン具サニ告グ  
 ルニ病狀ヲ以テセシカバ修士曰ク神若シ汝ヲ癒サバ汝ハ  
 神ニ歸スルヤ」テレウオン答テ曰ク必ズ神ニ歸セン」ト修士又  
 曰ク我ハイエルサリムトイエリホンノ間ナルパレステナ  
 曠野ニ居ルエウフイミイナリ我が所ニ來レ神ハ必、我ヲ以テ  
 汝ヲ癒シ玉ハントス」ト  
 夢、覺テ後、テレウオンハ喜悅ニ禁ヘズ夢中見ル所ヲ以テ父ニ  
 告ゲシカバアスベワト大ニ悅ヒ全家ヲ携ヘ衆僕ヲメ兵裝  
 ナ爲サシメ之ヲ從ヘテパレステナニ至リ修道院ヲ訪ヒ、  
 ナエウフイミイニ乞ヘリ修士等初メ兵裝ヲ爲セシ「サラナン」

人ヲ見テ大ニ驚愕シタリシカ來意ノ如何ヲ知リ始メテ安キ  
 思ヲ爲セリエウフイミイ、アスベワトノ言ヲ聞キ病者ノ傍ニ  
 至リ彼ノ爲ニ祈禱シテ十字架ヲ畫キケレバ病者倏チ痊エ  
 起テ神ヲ讚メ揚ゲタリ其ノ家僕ナル異教人等ハ此ノ奇蹟  
 ナ見テ皆驚愕シエウフイミイノ足下ニ俯伏シハリストスノ  
 眞神ナルヲ承ケ認メ聖洗機密ヲ受ケン「テ請ヘリ、エウフイ  
 ミイ彼等ニ教フルニハリストス教ノ眞理ヲ以テシ彼等ノ  
 確カニ信スルヲ認メ遂ニ父及ビ子及ビ聖神ノ名ニ依テ洗  
 禮ヲ授ケ彼等ヲ修道院ヘ留ムル「四十日ニシテ眞理ノ奧妙  
 ナ説キ其ノ信ヲ鞏固シテ後、彼等ヲ國ニ還ラシメタリ

ペートルアスベワエト領洗シテ改名セリ國ニ歸ル後、夥多ノ「サヲナシ」  
人ヲ反正セシメ後チ修道院ヲ建テ自ラ掌院トナレリ其ノ  
弟モ亦、修士トナリ全産ヲ傾ケテ修道院ニ納メケレバ聖エ  
ウフイミイ之ヲ受ケ貧者ニ濟施シ且ツ修道院ヲ營繕セリ  
成徳ナルエウフイミイハテレワオンヲ痊シタル奇蹟ニテ其ノ名、  
益々揚リタリ然レド謙遜無量ノエウフイミイナレハ心ニ之  
ヲ屑ギヨシトセズ修道院ヲ去リシフノ野ニ行キ昔時ヨリ  
ダワイドガサウルノ難ヲ避ケタル所ト傳ヘシーノ洞穴ニ  
孤棲シ時々修道院ニ至リ其ノ總理ヲフェオクテイストニ依任  
セリエウフイミイハ斯ク閑靜ナル處ニ在リテ獨リ神ニ奉事

セント欲セシ故、先ツ來者ヲ謝絶セントセシガ主ハ夢ニ己  
レヲ救フガ爲メニ來ル者ヲ避ク可カラザルヲ告ケ玉ヒ  
ケレバ來者日ニ加ハリ月ニ盛ニシテ又一ノ修道院ヲ創立  
スルニ至レリ  
エウフイミイノ修道院ハ衆人ノ爲ニ其ノ門ヲ開キ疾ム者ハ  
其ノ祈禱ニ依リテ癒ルヲ得ベク貧者ハ以テ食ヲ得ベク  
又何人モ其ノ教訓ト勸勉トヲ受ケテ己レヲ益スルヲ得ベ  
キナリ且ツ殊ニ人心ヲ洞知スル思ヲ得テ其ノ名高ク人々  
ノ心ニ隱藏セル思想ヲ知レル故ニ其ノ教訓ハ殊ニ人心ニ  
感徹セシトゾ

エウフィミイ教訓シテ又多クノ岐教者ヲ真理ニ歸セシメタ  
ウレタムラシヘンモン  
 リ小フェオドシイノ皇后エウドキヤハエフタイヒイノ岐教ニ  
 迷ヒタレトモ熱切、真理ヲ尋ズル人ナレハ聖者ノ教訓ヲ乞ハ  
 ントノ登塔<sup>ヌウダフ</sup>修士シメオンニ就キシコシメオン皇后ニ謂テ  
 曰ク爾、已ノ傍ニ源泉ヲ持テリ然レド水ヲ我ニ求ムルハ我  
 ガ怪シム所ナリ爾、神明ナルエウフィミイテ持テリ就テ其ノ  
 教訓ヲ受ケヨ必、爾ノ靈魂ヲ救ハント此ニ於テ皇后ハシメ  
 オンノ勸ニ從ヒイエルサリムノ居城ヲ出テ野ニ至レバ成  
 徳ナルエウフィミイハ彼ヲ導キテ真理ニ反正セシメタリ  
 成徳ナルエウフィミイハ年老テ後、世ヲ逝ル<sup>サ</sup>ノ方ニ近キヲ知

リタリ時ニ修士等、皆、聖四旬齋期モ至リケレバ聖エウフィミ  
 イハ例ノ如ク野ニ至リ孤棲セント思ヒ皆ナ來リテ之ヲ送  
 ラントセリ然レドエウフィミイハ衆兄弟ニ謂テ曰ク此ノ一週間  
 ハ我レ爾等ト偕ニ居ラン但、土曜日ノ中夜、我レ爾輩ニ別カ  
 レテユカント斯クテ將ニ世ヲ逝ラントスル時、衆兄弟ヲ集メ  
 後任ヲ撰ハシメ且ツ遺訓ヲ曰クハリストスヲ信スル我が  
 諸父兄弟及ヒ我が子ヨ爾等、万事、同心、共和シテ互ニ相愛ス  
 可シ蓋シ盥ノ食物ニ於ルガ如ク親愛ハ作善ノ爲ニ甚タ肝  
 要ナリ愛ノ博キト謙遜ナルトニ因リ其ノ善良ノ人タルヲ  
 知ル已レテ願ニ爾ノ靈ト形トヲ潔ク守レヨ聖教會ノ規則ニ

遵守セヨ艱難ノ人ヲ助ケヨ若シ兄弟中ニ誘ニ陥リシ者アラハ之ヲ正路ニ導ヒギ之ヲ真理ニ固メヨ修道院ノ門ハ常ニ貧者、旅客ノ爲ニ開キ其ノ有ル所ヲ以テ之ニ分チ與ヘヨ仁慈深キ主ハ必ズ爾等ヲ捨テザルナリト

エウフイミイ數日ノ間一心切熱ニ祈禱シ享年九十七ニテ安然トシ己ノ魂ヲ神ニ捧ゲタリ實ニ降生四百五十七年ナリ

全バレステナノ人々彼レノ世ヲ逝リシ訃言ヲ聞キ猶ホ小兒ノ慈母ニ別ル、ガ如ク悲嘆ノ聲四方ニ聞エ修士、隱士、俗人ノ別ナク皆來リテ其ノ葬式ニ與カリ而シテ多クノ奇蹟其ノ墓頭ニ行ハレタリト云フ

○成徳ナル表信者、致命者、マクシムノ傳 二日

ハリストス教、創立ノ時ヨリ數種ノ異端、邪説、起リテ「ハリステイアノン」ヲ迷惑シアラソヒキスル爭論駁撃止ム時ナカリシガ第七世代ニ當リテ神、人ノ二性ヲ含ムヲ誤リ認ル「モノツェリト」ノ岐教起リクリ「パーバ」及ヒ「イエルサリム」ノパテリアルフ總主教ツフロニイ之ヲ闢除セントテ力ヲ尽セシモグレチヤ帝イラクリイハ岐教ノ保護者トナリ岐教ニ偏倚スル一詔令ヲ發シテ全國中ニ公布シタリシカバ岐教ハ大ニ傳布セリ然レド博學宏才ニシテ虔敬ナル學士マクシムハ真理ノ保護者トナリ固ク真理ヲ守リテ遂ニ一命ヲ致シタリ

マクシムハコンスタンティノールニ生レタル人ナリ其ノ  
 父母富貴ナレバ善良ナル教育ヲ受ケ仕テ大官トナリタリ  
 然レド王城ニ岐教盛ニ行ハレ滿朝ノ人皆之ヲ奉ズルヲ見  
 テ全心誠意正教ヲ認テ撓マザルノマクシムハ心ニ之ヲ屑  
 トセズ遂ニ冠ヲ懸ケ都ヲ去リ修道院ニ入り削髮シテ修士  
 トナリ後、幾クモナフシテ擇ハレテ綜理トナレリ  
 岐教日ニ月ニ盛ナリシカバ成徳ナルマクシム粉骨勉勵シ  
 テ之ヲ闢除セント欲シアフリカニ到リ其ノ地ノ主教等ヲ  
 懇懇シテ堅ク正教ヲ守ラシメ又周遊シテカルハゲン城ニ  
 到リシ時、コンスタンティノール城ノ總主教ヒル、ガアフリ

カチ經歷シテ岐教ヲ公布セントスルニ逢ヒ議論數回アリ  
 シガ成徳ナルマクシムハ力アル明辨ヲ以テ岐教ヲ駁シ眞  
 理ヲ解明シケレバビル、ノ胸中、洗フガ如ク岐教ノ雲霧始  
 メテ覺メ正教ヲ承認シ公教會ニ入りタリシカ後、窘逐ヲ懼  
 レテ再ヒ岐教ニ陷リタリ是ヨリシ成徳ナルマクシムハロ  
 マノ「パーバ」正教ヲ固ク守ルユヘロマニ到レリ  
 斯クテ異端ヲ奉ズルノ皇帝イラクリイ崩シ孫コンスタ即  
 位セシガ此ノ帝モ亦岐教ノ保護者ナレバ先帝ノ詔令ニ出  
 テタル信經ヲ廢シ新ニ正教ニ背ケル信經ヲ發シ降生六百  
 四十八年全教會ニ分布シテ之ニ從ハシメタリコンスタ帝

是ノ令ヲ羅馬ニモ布キケレバ虔敬ナル「パーパ」マルティンハ福音及ヒ使徒ノ教ニ背ク能ハザルヲ主張シ成徳ナルマクシムノ説ニ從ヒラテラン城ニ公會ヲ開キ帝コンスタガ布キジ詔令ヲ「アナフェマ」ニ付シタリ帝是ヲ聞キ大ニ怒リ種々ノ譏誣ヲ播<sup>カ</sup>ユマルティンヲ罪シタルモマルティン一々其ノ罪ナキヲ辨明セシカバ遂ニ夜竊ニマルティンヲ捕テ王城ニ護送セシメタリ聖マルティンハ種々ノ艱難罵辱ヲ受ケヘルソノ流サレ死ニ至ルマテハリストスノ正教ヲ承認シ表信者トナリ遂ニヘルソノ地ニ終リタリ（四月廿六日聖行念祭ヲ）マルティンノ記

成徳ナルマクシムモ二人ノ弟子ト偕ニ捕ヘラレテコンスタントイノーポリニ到リ各相離レタル獄舎ニ縛ガレ具サニ艱難耻辱ヲ受ケシガ謙遜無量従容トシテ諸難ヲ受ケタリ裁判官某ハマクシムハ皇帝ニ反キ國ヲ賣リテ「サラチン」人ニグレチヤ諸郡ノ數城ヲ與ヘントセリト譏言シテ之ヲ罪セントセシニマクシム主ヲ讚揚シテ曰ク神ヨ我レ爾ニ感謝ス我レ行ハザル罪ニ因テ今暫ク難ヲ受クルニ因ル願クハ我が自カラ行フ所ノ罪惡ヲ洗ヒ雪ケヨトマクシムハ斯ク諸難ニ遇フハ帝ノ勅ノ信經ヲ認メザルニヨルヲ明ニ知りタレドモ何等ノ諭言モ何等ノ威力モマクシムノ心ヲ枉ク

ルヲ能ハザリキマクシム辨論數回ノ後、罪ナクシテ強迫ラ  
 レ遂ニ弟子ト偕ニグレチヤノ遠境<sup>クニサカヒ</sup>フヲキヤニ流サレタリ  
 帝ハマクシムヲ己ノ信經ヲ信シ他人ヲモ岐教ニ入レン  
 ガ爲メ主教<sup>フエ</sup>オドシイ及ヒ數人ノ官吏ヲ<sup>フ</sup>ラキヤニ遣ハシ  
 成徳ナルマクシムヲ論サシメタリ然レド聖マクシムハ固  
 ク眞理ヲ守リ己ノ承認ヲ變へズシテ遂ニ帝ノ使者ヲ論破  
 シ却<sup>カヘ</sup>テ已ノ説ニ從ハシメ十字架ト福音書トニ接吻シテ公  
 使徒教會ノ定理ヲ承認スル証ト爲サシメ且ツ王城ニ歸レ  
 後、全カラ尽シテ帝ノ心ヲ啓キ正教ニ歸ラシムルヲ約シテ  
 歸リシガ使者ハコンスタンティノールニ歸ル後、又、岐教者ト

ナレリ其ノ後幾クモナクシムマクシムガコンスタンティノール  
 ポリニ召サル、時、先ノ使者ハ先言ヲ食ムヲ敢テ耻トセズ  
 己ノ例ヲ引キマクシムヲモ亦岐教ニ歸セシメントシ且ツ  
 帝ハマクシムヲ傾クルガ爲メ先ノ使者ニ諸々方法ヲ用ウ  
 ルヲ許シタリ先ノ使者、帝命ヲ奉シマクシムヲ論シテ云  
 ク我等ハ主ハ爾ノ心ヲ我等ニ向ハシメントシ望メリ然  
 ル時ハ我等愛ヲ尽シテ爾ヲ教會ニ尊ビ受ケ首坐ヲ授ケ偕  
 ニ聖機密ヲ受ケン此ノ如キニ至ラハ惟コンスタンティノール  
 ポリ城ノミナラズ全地ノ慶ビトナラン蓋シ斯クノ如クナ  
 ル時ハ衆皆必、我等ニ附カン今、西東、何レノ處モ皆、我等ガ宗



敵ノ敵ニシテ皆爾ニ注目シテ我ニ從ハズ故ニ至ル所爭論  
 駁議止ムヲナシト  
 聖マクシム答テ曰ク爾等皆神ノ審判ヲ免ル能ハズ我レ爾  
 等ノ意ニ從テ真理ニ背ク能ハズト彼等又聖マクシムニ唯、  
 其ノ説ヲ衆前ニ講明セザルヲ請ケレバ成徳ナルマクシ  
 ム答テ曰ク真理ヲ默スルハ所謂之ヲ捨ルナリ我レ之ヲ默  
 スル能ハズト  
 彼等又曰ク爾ガ心中ノ信ハ我等少シモ之ヲ妨ケス爾ガ欲  
 スル所ノ如クナルベシ唯願クハ口ニ之ヲ傳ル勿レト聖マ  
 クシム曰ク主ハ我等ニ唯心ノミナラズ口ヲ以テ主ヲ承

認スルヲ命ゼリ蓋シ主ハ主ハ人前ニ捨ル者ヲ天父ハ前  
 ニ捨テント云ヘリ且聖使徒云ヘルアリ夫レ人心ニ信ヲ以  
 テ義ト稱セラレ口ニ認テ以テ救ヲ得ルト（羅馬書十

成徳ナルマクシムハ從容トノ斯ク正理ヲ申ヘケレハ帝ノ  
 使者、マクシムヲ嚇シテ服從セシメント欲セシモ少シモ屈  
 スル色ナケレバ憤怒ニ堪ヘズ暴狀ニモマクシムヲ鞭打チ  
 大ニ誹謗惡言シタリ然レドマクシムハ堅ク守テ聽カザレ  
 バ帝聞テ大ニ怒リマクシムヲセリムウリヤニ放逐セリマ  
 クシムハ謫所ニ在リ力ヲ極メテ正教ヲ説キ真理ヲ傳播セ  
 シカバ其ノ地ノ士民、神司等來リ就キテ宏才明智ナルマク

シムノ言ヲ聽キ厚ク神ヲ信シ正教ニ歸スル者多カリキ帝聞  
 テ又マクシムナペルワラ城ニ遷シ獄舎ニ繫キ幾クモナフ  
 シコンスタンティノールニ護送シ裁判ヲ開キタリ  
 マクシムナ法庭ニ召致シ種々ノ譏誣誹謗ヲ構ヘテ罪ニ陷  
 レントセシニマクシム泰然トシテ不法ナル法官ニ答テ曰  
 シ記憶セヨ主カ爾人ヲ議スル若何ナレハ議セラルモ亦是  
 ノ如シ爾人ヲ度ル若何ナレハ度ラルモ亦是ノ如シ馬太七章一二  
 ト云ヒシヲマクシムヲ拷治スルヲ數日ニ及ビ遂ニ國  
 ニ反ギシ者ト爲シテ之ヲ罪シ其弟子ヲ召シ囑シテ讒者ノ  
 証ヲ堅メシメントセシニ弟子等ハ忠信ニシテ已ノ師ヲ守リ

官吏ノ言ニ從ハザリキ然ルニ法官強テマクシムノ罰ニ當  
 ル可キ者ヲ求メ其ノ老衰セシヲモ顧ミズ牛筋ヲ以テ鞭撻  
 シケレバ皮肉破レテ鮮血四面ニ迸リ流レタリ次日ニ至テ  
 正教ヲ説ク能ハザラシメンガ爲ニ舌ヲ斷リ眞理ヲ録スル  
 能ハザラシメンガ爲ニ右手ヲ切り弟子ノ一人モ亦同刑ニ  
 處セラレタリ其ノ後切斷シタル舌ト右手ヲ土民ニ示シ二  
 人ヲ罵詈誶謗シツ、市街ヲ引キ肆ヲシ遂ニスキフ當時南露西亞  
 ノ地ヲ斯ク名付ケタリ然ルニ其ノ地ニ放流シタリ二人苦  
 痛甚クシク起ツ能ハザレバ輿ニ乗ラシメ之ヲ護送セシニ  
 弟子ナル聖アナスタシイ遂ニ路ニ死シタリ聖マクシム諒

所ニ在リテ三年ノ星霜ヲ寂漠ナル地ニ送り千辛萬苦ヲ同  
シ降生六百六十二年ニ至リ安然トシ此ノ世ヲ逝リタリ

○聖使徒ティモフェイノ傳 三日

聖使徒パウエルガリストラ城ニ傳道セシ時、奇蹟ヲ行ヒ跛者  
ヲ痊セシカバ此ノ城ノ人民、之ヲ見テ主ヲ信スル者多カリ  
キ其ガ中ニ「エウレイ」ノ一婦アリパウエルヲ已レガ家ニ請ヒ  
之ヲ宿セシメ已ノ子ヲ托シテ其ノ弟子トナサンイテ請ヒ  
タリ是ノ少年ハ即チティモフェイナリパウエルハティモフェイヲ教  
育シリストラヲ去ル時、之ヲ他ノ「ハリストニアコン」ニ托セシ  
ガ其ノ年少ニシテ熱信ニ主ヲ愛スルヲ聞キ召ビテ自ラ之ヲ

教訓シ是ヨリ聖ティモフェイハ使徒パウエルノ至愛ナル弟子ト  
ナリ忠信ナル同勞者トナレリティモフェイ常ニ使徒ト共ニ辛  
苦艱難ヲ甘シエフェスコリンプ及ヒグレチヤ小アシヤノ諸  
郡ヲ周遊シ風ニ櫛リ雨ニ浴シ碎身銳意ニ神ノ聖言ヲ傳播  
スルヲ助ケシカバ使徒パウエルハ篤ク之ヲ信任シ新信者ヲ  
固ムルガ爲ニ之ヲ諸方ニ派遣シタリシニティモフェイ命ヲ奉  
ジテコリンプ及ヒフェサロニカニ到リタリ聖使徒パウエルハ  
ティモフェイニ旨深キ教訓ト至愛トヲ尽シタルニ書ヲ遣ハ  
シ中ニ云ヘルアリ曰ク神ノ人ヨ唯爾宜シク此ヲ(好利ヲ)避  
ケテ義、虔、信、愛、柔、忍、ニ從フベシ爾宜シク信ノ善戰ヲ爲シテ

永生ヲ取ルベシ爾之ニ因テ召チ蒙リ且ツ己ニ善志ヲ多証  
 者ノ前ニ明カニスト (提前、六章) 又エフェス教會チテイモフェイニ  
 依任シタル時、聖使徒パウエル書チ遣シテ曰ク爾キ年少ナル  
 ナ以テ人ニ輕視セラル勿レ宜シク言キ以テ行テ以テ愛チ  
 以テ靈チ以テ信チ以テ潔チ以テ信者ノ模楷トナレ專ラ誦  
 讀、勸勉、教訓、ヲ務メ以テ我カ來ルニ迨オキベ爾ニ賜ハル所ノ恩チ  
 自棄スルコ勿レ (提前、四章) 血氣ノ欲チ戒メ義、信、愛ヲ以テ清  
 心シテ主ノ名チ顯ヨテ者ト相親ニ當サニ愚魯不學ノ辨チ擯シ  
 シ可シ蓋シ吾レ是ニ由テ爭競ノ生ズルチ知ル夫レ主ノ僕  
 ハ爭競ス可カラズ能ク慈ヲ以テ衆チ處シ侮チ受レハ之ヲ

忍ビ逆理者ニ接スルニ柔和ヲ以テセヨ (提後、二章) 爾チ宜ク  
 道ヲ傳フ可シ時ヲ得ルト時チ得ザルトチ論ズル勿レ皆宜  
 シ專ラ之ヲ務メ諸ノ恒忍ト教誨トチ以テノ督責、儆戒、勸勉  
 ス可シ又宜ク萬事、儆醒ノ苦ニ耐ヘ傳道者ノ工チ行ヒ爾ノ  
 職チ尽ス可シ (提後、四章)  
(二ヨリ五)  
 テイモフェイハ聖師ノ命チ遵守シエフェスノ始メノ主教トナリ  
 粉骨勤勉シテ正教チ堅メタリ又小アソヤニ傳道セシ神學  
 者イオアンノ勸勉ヲモ受ケ己チ利スルコ甚タ大ナリテイモ  
 フェイ世チ逝ルノ後イオアンバトモス島ヨリ歸リエフェスノ  
 主教トナレリ聖テイモフェイハ死ニ至ルマテハリストスノ善

仁ノ軍士ナルヲ顯ハシ降生九十一年ニ至リ主ノ聖名ノ爲ニ致命セリ

或ル日エフェスニ邪神ノ大祭アリシ時神興ヲ出シ市街ヲ廻シテ讚歌ヲ唱ヒ大ニ雜沓ヲ極メタリ使徒テイモフェイ出テ之ヲ逆ヘ眞神ノ正道ヲ説キケレバ邪神ヲ奉ゼシ人々大ニ怒テテイモフェイヲ石擲シ或ハ杖撻シテ遂ニ死ニ至ラシメタリ「ハリスティアニン」等之ヲ聞キ愛ス可キ讚ム可キ己ノ主教ヲ郊外ニ葬リタリ  
多年ヲ經テ大帝コンスタンティンノ子コンスタンタイノ詔ニヨリ使徒テイモフェイノ聖軀ヲコンスタンタイノイポリニ

遷シ使徒ノ名ニ依リテ建タル聖堂ニ之ヲ收メ首メテ召チ蒙リシ使徒アンドレイ及ホルガノ聖軀ト偕ニ安置セリ

○アンキラノ主教、神品致命者、聖シリメント及ビ聖致命者、アガフアンゲル、ノ傳四日

聖クリメントハ第三世代ノ半ノ頃ガラディヤノアンキラ城ニ生レタリ其ノ父ハ異教ノ徒ナルモ母ハ「ハリスティアニン」ナレハ夫ヲ歸正セシメントテ日夜之ヲ焦思セシカ遂ニ夫ハ早ク世ヲ逝リケレハ志ヲ果ス能ハズ少ク寡婦トナリ世ニ亡キ夫ノ冥福ヲ祈リ紀念ノ一子ヲ愛育シテハリスト

スノ忠信ナル僕トナサントセリ母ハハリストス教ニ熱心  
 ナルモ惜ヒ哉又不幸ニシテ早世<sup>ハヤクシユ</sup>シ死ニ臨ミ神ニ祈リ至愛  
 ノ子ヲ致命者ノ榮冠ヲ戴カシメントシ且ツ遺言ノ之ヲ  
 守ラシメリ斯ク幼童ナルクリメントハ頼ミナキ孤子トナ  
 リタレヒ慈母カ生前<sup>イタルトキ</sup>常ニ愛子ニ仁愛深キ父ノ如クニ主神  
 ナ額<sup>コ</sup>アヲ教ヘシカバ主ハ彼ヲ捨テズソ幼童ヲ護ル可キ  
 仁善ナル婦ヲ賜ヒ亡キ母ノ親友ソフイヤ、幼童ヲ己ノ家ニ置  
 キ實子ノ如クニ鞠育シタリ此ノソフイヤハ善良ニシテ憐恤  
 深キ婦ナレハ大饑饉<sup>キケン</sup>ノ時多クノ異教人己ノ子女ヲ養育ス  
 ル能ハズソ之ヲ捨テシテ愍レミ己ノ家ニ集メテ衣食セシ

メシカバクリメントモ諸事ニ意ヲ注キ力ヲ竭シテ恩人ヲ  
 助ケ子女ヲ教育シ聖洗ヲ受ルニ備ヘケレバソフイヤノ家ハ  
 敬虔ナル宗教學校ノ如クアリキ  
 クリメント長ズルニ及ビテ讀經者トナリ次テ補祭、司祭ト  
 ナリ二十歳ノ時遂ニ主教ニ擇バレ猶ホ子女ヲ教育シ繁忙  
 多事ノ間ニ懇切ヲ尽シテ神ノ群羊ヲ牧シケルニ早ヤ母ノ  
 遺言ヲ行フ可キ時至リタリ是ノ時ロマ帝デオソリティアン  
 ノ窘逐<sup>ク</sup>クリメントノ身ニ及ヒ遂ニ捕ハレテ官廳ニ出テ勇  
 ミ屬ミテ固ク眞神ヲ承認シ無慘ナル苦ミヲ受クルモ志氣、  
 凜然トシ眞理ヲ守リケレバ衆皆斯ル無慘ノ拷治ニ逢フモ

其ノ死セザルヲ奇トセザルハナシ而モ主神ハ彼ヲ守リ其  
 ノ瘡ヲ痊シ其ノ心魂ヲ堅メリガラディヤノ長官クリメント  
 ナロマニ送りケレバクリメント彼所ニ在リテ復タ悔ル可  
 キ拷治ニ逢ヒ獄舎ニ繋ガレシガ多クノ異教人ヲ眞神ニ歸  
 シ且ツ其ノ中致命スル者モ多クレバ囚中少シク慰ムヲ  
 得、又新ニ洗テ受ケシアガフンゲル、ト云ヘル者己ノ福ナ  
 ル教師ノ親友トナリ共ニ勤勞シテ苦難ヲ分ナタリクリメ  
 ントロマヨリニコミディヤ城ニ送ラレ聖アガフンゲル、ト  
 共ニ多クノ苦難ヲ受ケ又故郷タルスノアンキラニテ數年  
 ノ間囚ハレテ艱苦ヲ受ケシ後、洞穴ノ聖堂ニ於テ捧神禮ヲ

行フ時、異教ノ頭領ノ命ニテ殺サレタリ聖アガフンゲル、  
 ハ是ヨリ先キ苦<sup>カシラ</sup>ヲ受ケテ遂ニ死シタリト云フ

○此日又ノルノ聖パウリンヲ紀念セリパウリンハフランス  
 ノ南ナルポルト城ニ生レタリ其ノ父母ハ富貴ナレバ異教ノ  
 善キ教育ヲ受ケ二十歳ニシテ議員トナリ幾シモナクノ富豊ナ  
 ルカンパニヤ郡ノ令トナレリ後、其ノ妻ヲレザ及ヒミランノ  
 主教、聖アンブロシイ及ヒ「ハリストティアノン」ナル親友等ノ勸  
 ノハ神ノ恩佑ニ由リテ大ニパウリンニ感情ヲ起サシメタ  
 リ是ニ於テ彼レ主ハリストスヲ信シ是ヨリ行狀更ニ改マ  
 リ至心誠意ヲ尽シ主ニ奉事シ遂ニ冠<sup>クラウナ</sup>ヲ懸ケ全産ヲ擲<sup>ナク</sup>ナテ

貧シキ人々ニ分チ富豊ナル莊園ヲ遺テ聖致命者ベリクス  
 ノ聖軀ヲ安置セシ聖堂ニ程近キ小邑ノルニ遷リ教會ノ詠  
 歌ヲ作り聖像ヲ畫キ聖常ヲ飾リ堂ニ貧シキ人々ヲ恤レミ  
 不幸ナル人々ヲ慰藉セリ後司祭トナリ次テ主教ニ擧ラレ  
 舊友ノ誹謗罵辱ヲ受クルコト少ナカラズ并ハ舊友等ハ聖バ  
 ヲリンノ反正ノ身生ヲ更へ自ラ貧シキニ安ズルヲ視テ至  
 愚トナセバ也左レトパウリンハハリストスノ恩佑ヲ以テ  
 鞏固セラレ世ノ風聞ニ迷ハズ自ラ以爲ラク少シモ損失ス  
 ルコトナク反テハリストスヲ信シ全ク神ニ依頼シテ竭キザ  
 ル寶ヲ得タリト且ツ自ラ究乏ニ陥リシモ貧シキ人々ニ庶

品ヲ分チ常ニ幸福ニシテ平安ナリキ此ノ時「ワンタル」人時々  
 イタリヤニ侵シ入り多クノ人ヲ虜シケレバ聖パウリンハ  
 全力ヲ尽シ之ヲ贖ヒ求メ遂ニ一ノ寡婦ノ子ヲ贖ハンガ爲  
 ニ自ラ人ノ奴トナリシガ主人其ノ高德ニ感シ己ノ過チヲ  
 悔ヒ禮ヲ加ヘテパウリンヲ放チ歸セリ後チ聖パウリンハ  
 降生四百三十一年晏然トメ遂ニ世ヲ逝リ神ニ復歸セリ

○五日

五日ニ羅馬ノ富貴ナル少女聖キセニヤヲ紀念セリ彼ハ貧  
 賤勞苦ノ間ニ主神ニ奉事センガ爲メ萬事ヲ捨テタル少女  
 ナリ



○我等ノ父、神學者、聖グリゴリーノ傳 六日

神學者聖グリゴリーハ聖大ラシリイト相知リ心志ノ同キ  
 ナ以テ堅ク交ヲ結ヒ同窓ニ在リテ勤學シハリストス教ノ  
 奧義ヲ究メ善ク神ノ誠ニ遵守セシ人ナリ  
 神學者聖グリゴリーハ大約降生三百二十八年ノ頃カッパド  
 キヤ郡ナシアンズ城ノ近邑アリアンズニ生レタリ家固ヨ  
 リ富貴ニシ其ノ父初メ異教ノ徒タリシモ妻ノシテハ虔敬  
 ナル「ハリスティアニシ」ナリケレバ早晚、真理ニ導カレ後、遂ニ  
 ナシアンズ城ノ主教ニ舉ラレタリ聖グリゴリーガ稿セシ  
 或ル文章ノ中ニ二親ノ徳義ナル行狀ヲ書キ載セシガ敬愛

紙上ニ溢レリ其ノ文ニ曰ク我が母ハ祖先ヨリ信セシ真理  
 ノ正道ヲ承ケ已ノ諸子ヲモ此ノ黄金ノ鎖リテ以テ繋キタ  
 リ我が母ハ容ナハ女子ニシテ心ハ男子ナリ現世ノ生命ヲ  
 以テ來世天上ノ生命ニ備フルガ爲ニハ浮世ノ務ヲモ慮カ  
 リ地上ノ事ニモ關セリ我カ父ハ始メ偶像邪神ニ奉ヘシ者  
 ニシテ惡シキ橄欖樹ノ如クナリシモ後テ嘉キ橄欖樹ノ幹  
 ニ就キタリ我ガ父ハ頭髮白ク才智老鍊ニシテ經驗ニ富ミ  
 人ニ交ハルニ禮讓厚ク人ト語ルニ温和ナリ我ガ父ハ新タ  
 ニ生レタルアハロンモイセイノ如クニシテ神ト人トノ間  
 ニ居リ轉達者トハナレリ我ハ此ノ如キ二親ヨリ生レタリ

ト又他ノ文ニ母ノンナガ子ヲ生マザル先キヨリ神ニ其ノ  
 子ヲ奉ツリ後ヲ教育ノ道ヲ尽シ幼ナキ時ヨリ其ノ心盤ヲ  
 敬虔ニセシメテ務メタルヲ記セリ  
 聖グリゴリイ漸ク長シテ書ヲ讀ムニ至リ母ノンナグリゴ  
 リイヲ抱キ聖書ヲ予<sup>アタ</sup>ヘテ曰ク昔時アウラアムガ善良ナル  
 一子イサアシヲ神ニ獻セシカ如ク我モ亦約ヲ踐<sup>ツ</sup>ニ爾ヲ獻  
 ズテ神ニ奉事セシメテ爾必ズ母ノ宿望ヲ遂ゲシムヘシ<sup>ナキ</sup>  
 ニ我レ爾ヲ賜ハンコト主ニ祈リ今又爾ノ完キ者トナラン  
 コトヲ願ヘハ爾我ガ心ヲ記憶シテ忘ル、コトナカレト故ニ聖  
 グリゴリイハ之ヲ文ニ載セテ曰ク我レ謹テ母ノ望ニ從ヒ

總角<sup>ヲカトキ</sup>ノ時ヨリ敬虔ナル者トナランコト我々トシテ勉メタ  
 リト此クノ如ク聖グリゴリイハ幼キ時ヨリハリストス教  
 ノ訓誡ヲ守ルコトニ注意セリ聖グリゴリイ一夜己ノ智識ヲ  
 感動セシムル最ト奇ナル夢ヲ見、深ク其ノ記憶ニ徹シケレ  
 バ之ヲ人ニ語テ曰ク我レ或ル夜、熟睡スル時、不圖<sup>ハカラザリ</sup>キ左ノ如  
 キ夢ヲ見タリ其夢ニ白衣ヲ被タル二人ノ處女我ガ傍ニ立  
 ツアリ其ノ容貌ハ嫵媚、美麗ニシテ年モ亦タ互ニ相同シ我レ  
 之ヲ見テ喜ニ堪ヘズ蓋シ彼等ハ尋常ノ死物ニハ非ザルベ  
 シト思ヘハナリ彼等モ我ガ歡ヒテ熟視スルヲ喜ヒ我ヲ愛  
 スル恰モ己ノ子ノ如クニシテ我ニ接吻セリ我レ其ノ誰タ

ルヲ問へハ彼等答テ曰ク一人ハ清○潔○無○罪○一人ハ貞○潔○恭○謙  
 ニ○共○主○ハリストスノ寶座ニ近ツキ立ツ者ナリ爾、吾ガ  
 子ヨ爾ノ智ヲ以テ我ノ心ニ合セ爾ノ燈ヲ以テ我ノ燈ニ合  
 セヨ然ルキハ爾ハ光明赫々タル光ニテ清メ輝カザルベシ  
 而ノ我等爾ヲ天上ニ携ヘ行キ天ニ在セル至聖三者ノ光榮  
 赫々タル寶座ノ前ニ立タシムヘシト言了リ矚然トシテ去  
 リシガ我レ離別ヲ惜シミ之ヲ目送スルヲ漸々久シカリキ  
 聖グリゴリイハ弟ケサリイ妹ゴルゴニヤト共ニ敬虔ナル  
 父母ノ膝下ニ在リテ鞠育セラレシカハ兄弟三人共ニ學問  
 ヲ勉メ眞實ノ信者ナリ一家甚タ親睦ニシテ凡百ノ事ハ齊

ハザルヲナシ然レド父母ハ諸子ニ博ク學藝ヲ修メシメン  
 ガ爲メ學校ニ遣ハサントセリ

聖グリゴリイ年甫テ十歳ニシテサリヤニ遊學シ始テ聖ワ  
 シリイニ遇ヒ無二ノ友トナリシガ其ノ後弟ト共ニ暫ク  
 アレクサンドリヤニ遊ヒ後更ニアフィンニ赴カントテ、海路  
 ニ就キシガ颶風俄ニ起リ怒濤、船ヲ打テ今ヤ海底ニ沈マン  
 トスルノ勢ナリシカ奇ナル哉同航ノ一人夢ニグリゴリイ  
 ノ母、聖ノンナガ既ニ覆ツカリシ船ヲ救ハントスルヲ見、遂ニ此  
 ノ危難ヲ脱ノレシカ聖グリゴリイモ斯、ル危難ヲ脱レシハ  
 全ク善良ナル母ノ祈禱ノ力ニ因ルナルベシト思ヒタリ聖

グリゴリイモ斯ク危難ヲ免レテアフィンニ達シケルガ再タビ  
 聖ワシリイニ遇ヒ交情益堅シ故ニ聖グリゴリイ或ル文ニ  
 書シテ曰ク我等二人ハ厚ク交ヲ結ビテ相ヒ助グ室ヲ同フ  
 シテ起居シ己ニ志ヲ同クシ又望ヲ同フセリ二人ノ友誼ハ  
 日ニ深ク月ニ堅ク共ニ徳ヲ修メ各々己ノ才智才能ヲ研<sup>ミカキ</sup>キ  
 テハリストス教ノ眞理ヲ正解スルノ準備ヲナシタリ我等  
 互ニ嫉妬ノ心ヲ懷カズ反テ首長タルヲ讓リ共ニ徳ヲ積ミ  
 且ツ心ヲ來世ノ生命ニ向フヲ勉メタリ我等同窓ノ者ト博  
 ク交ヲ結ヒタリシモ唯徳義ナル有益ノ人ヲ撰ヘリト  
 聖グリゴリイ又幼稚ノ時ヨリシテ學術ニ志サセシヲ記

シテ曰ク我レハリストス教ヲ播布スル利益トナサンガ爲  
 メ勉メテ異教ノ學術ヲ修メタリ蓋ハ我ハ一個ノ空ナル異  
 教ノ能辨術ハ其狡猾ナル手段ヲ以テ我ヲ欺ク能ハザルヲ  
 知レバナリ又曰ク我ハ諸々ノ學術ヲ以テハリストスノ足  
 下ニ置キタリ蓋ハ總テ人智ノ辨論ト多端ノ詞ヲ掩フ所ノ  
 大ナル神ノ聖言ニ順ハシメントスレハナリト」  
 斯クテ聖グリゴリイハ大ワシリイト共ニアフィンニ在リ晝  
 夜文藝ヲ勉強セシフ既ニ六年ノ星霜ヲ經テ學成リ業遂ケ  
 レバワシリイト共ニアフィンヲ去ラントセシガ同窓ノ學友  
 等ノ望ニヨリテ獨リグリゴリイ暫ラシ留マリタリ彼等聖

グリゴリイテ哲學ノ教授ニ爲ント欲シテ頻リコ之ヲ勸メ  
 タレトモグリゴリイハツシリイノ去リシ後志ヲ明シテ語ル  
 ベキ友モナケレバ戀々トシテ常ニ樂マズ遂ニ耐ル能ハズ  
 シテアフインヲ去リ路次ミチスガタコンスタンタイノーポリニ至リ弟ケ  
 サリイヲ携ヘテ故里ニ歸リタリ母、聖ノンナガ嘗テ二子ノ  
 將ニ家ヲ出テントスル時之ヲ送リテ神ニ祈リ願クハ今、二  
 子ノ相共ニ家ヲ出テシガ如ク後又相伴ヘテ故郷ニ歸ルコ  
 ナ得セシメ玉ヘト云ヒシ言ニ從カヘルナリ聖グリゴリイハ  
 故郷ニ歸リシ後、家ニ在リ始テ聖洗ノ機密ヲ領ケザリトツ  
 彼レ先ニアフィンニ在リシ時「ハリスタイアコン」ト稱スル能ハ

ザルコナ以テ大ナル憂トナセリ故ニアフィンニ於テ大地震  
 ニ遇ヒシコナ記シテ曰ク此ノ時全グレチヤ大ニ震動セシ  
 ガ我モ亦我カ魂ノ爲ニ痛ク恐怖セリ蓋シ吾カ魂ハ未ダ洗  
 禮ノ水ヲ以テ清メラレザンハナリト  
 斯ク聖グリゴリイハ學成リテ故郷ニ歸リ既ニ一生ノ業ヲ  
 撰定スベキ事機到レリ此ノ時聖大ワシリイハ已ニ修道ノ  
 志ヲ立テ曠野ニ隱遁シケレバグリゴリイニ己レノ所ニ來  
 ランコナ勸メシガ聖グリゴリイモ固ヨリ祈禱勤勞ノ一生ヲ  
 終ント欲スレトモ老タル父母ヲ捨テ去ルニ忍ヒズ且ツ弟ケ  
 サリイハ遠ク京官トナリ妹エールエニヤハ人ニ嫁シテ家ニ

在ラザレバニ親ニ孝養スヘキ者ハ己ノ外他ニ有ラザル故、  
 意ヲ決シテ隱遁スルヲ能ハザリキ  
 故ニ彼レ記シテ曰ク吾ガ主ハリストスロ我レニ親ニ事ヘ  
 ヲ、爾ノ聖旨ヲ成サント思ヘリ爾、死スヘキ者ニ子ヲ玉フ  
 ハ其ノ子ノ手ニ助ケラレ其ノ子ヲ以テ太ク衰ヘタル支肢  
 百体ノ傾ムクヲ支ル杖ノ如ク其ノ子ノ扶ヲ受ケシメシガ  
 爲ナリ故ニ我レモ吾ガニ親ノ爲ニ慮カリニ親ノ勞ヲ輕ク  
 シ且ツ尤凡有徳ノ業ヲ營ミテ人間自然ノ天性ニ命スル所  
 ヲ遂ゲント思ヘリト然レド親友ノ情誼捨テ難ク且ツ己レ  
 モ切ニ望ミシ事ナレバ機ヲ見テワシリイテ訪ヒ暫ラシ、彼

處ニ留マリテ家事ノ煩勞ヲ休スノ心神ヲ慰メタリ然レド  
長ク留マル能ハズソ父母ノ家ニ歸リケルモ親友ヲ戀ヒ閑  
靜ナル曠野ヲ愛スル心切ナリシハ其ノソシリイニ送リシ  
書讀テ見テ知ルベシ曰ク誰レカ我ニ復ビ終夜ノ勤行ト祈  
禱ヲ與フル者ヅ誰レカ復ビ我ニ兄弟ノ和平同心ト聖書ノ  
講讀ト吾人が聖神ノ諭訓ニヨリ聖書ヨリ得タル光明トヲ  
與フル者ヅ又誰レカ復ビ我等ガ日々ノ職業ナル石工種樹  
ヲモ與フル者ヅ願シハ爾靈ヲ以テ我ト偕ニ居リ我が徳行  
ニ進ムヲ扶ケ且ツ爾ノ祈禱ハ我等ト偕ニシ其得ル所ノ善  
ニ我ヲ固メヨ云云ト

其ノ後聖グリゴリイハ司祭ニ撰舉セラレシガ尊キ神職ヲ承ルニ當テザルモノナリトテ固ク此ノ職ニ就ク<sup>ト</sup>辭シテ肯カハザリシモ遂ニ聽サレズ<sup>ン</sup>其職ニ上リシカバ其ノ勤勞一層加ハリタリ

當時ハハリストス教ノ仇敵ナルユリアン帝ノ代ニ<sup>ノ</sup>教會殊ニ多事ナレバ之ヲ治ムル<sup>ト</sup>甚難カリシガ聖グリゴリイハ昔シアフィンニ在リテ帝ト同窓ノ學友タリシ時帝ノ道ニ背キシ行狀ヲ舉ケテ之ヲ諫メシ<sup>ト</sup>モアリ今ハ教會ノ賊ノ父トシテ「ハリストスティアコン」ノ權利ヲ守リタリ然ルニ更ニ甚シクグリゴリイヲ苦シメシハ煩劇ナル家事ニ<sup>ノ</sup>父ノ財產ヲ

守リ僕婢ヲ使役シ稅ヲ納メ不正ナル法官ト辨論シ且ツ法官ノ法律ヲ枉グルヲ見ルハ實ニ耐ヘザル所ナレハ弟ケヤリイト勞劬ヲ分ツベキ日モアラント、之ヲノミ望ミテ其ノ日ノ至ルヲ待チタルモ圖ラザリキ弟ケサリイハ病ニカリ遂ニ死セシカバグリゴリイノ願、空キノミナラズ實ニ一家ノ悲嘆トナリヌ聖グリゴリイハ弟ノ墓前ニ於テ演說セシ言ニ兩親ノ深キ歎キト永ク眠リシ弟ケヤリイノ才智才能ハ人ニ勝レシ<sup>ト</sup>述ヘタリ其ノ略ニ曰ク、ケサリイハ博學多聞ナレ<sup>ト</sup>聊ガモ矜誇<sup>ホゴ</sup>ノ念ナシ曾テ宮殿ニ在リテ大ナル榮譽ヲ受ケシモ少シモ慢心ヲ起シナク唯「ハリストスティアコン」



ト名ツシムル名稱ヲ以テ諸ノ幸福ノ上ニ置キタリ云云ト  
 一難去リテ一難又來ル何ゾ現世ハ不幸ノ甚クシキヤ弟ケ  
 サリイ眠リシヨリ未タ幾クナラズシテ妹ゴルゴニヤモ病  
 死セシカバ聖ダグリイハ此ノ德義ナル女ノ聖行ハ諸婦  
 女カ德行ノ龜鑑トナルベキ者ナレハ自ラ其ノ傳ヲ編アミ之  
 テ我等ニ遺セリ此ニ其ノ畧ヲ載センニ曰ク彼レハ誇慢ノ  
 心ナク固ク貞探ミサヲ守レリ殊ニ彼ノ尊フベキ所ハ夫々神ニ  
 向ハシメ其頑固ナル性質ヲ化シテ善良ナル同勞者トナシ  
 且ツ子孫一族ヲ悉ク一ノ心ノ如ク清ラガナラシメテ神  
 ヲ偕ラセシ功勞是ナリ加之シカナラズ彼レ世ニ在リシ時ニハ

諸子ノ爲メ諸善ノ龜鑑トナリ眠リシ後ニモ彼ノ記憶ハ一  
 家ノ爲メ無聲ノ教訓トナリテ永ク傳ハレリ如何ナル婦人  
 モ人ニ接スル際、嚴正ト温良ノ中間ヲ得ルヲ彼ニ優ル者ア  
 ランヤ彼レノ嚴正ナルハ腕ミ怒レルガ如キ者ニアラズ彼ノ  
 温良ナルハ真意ニ殊ニ体裁ヲ飾ルニアラズ是等ノトコ  
 於テモ彼ノ温和ニ明智ナルヲ見ハレタリゴルゴニヤハ  
 曾テ金銀、珠玉、美服ヲ用テ無益ノ外飾ヲ爲サズ尤モ廉耻ヲ  
 辨知シ扶助ヲ乞フ者ノ爲ニハ誰ノ手カ豈、彼ノ手ヨリ豊カ  
 ナル者アラシヤ彼レハ誠ニ孤者ミナシノ慈母タリ彼ノ家ハ貧困  
 ナル一家親族ノ安息所ノ如ク皆來リテ其ノ仁慈ヲ得、其ノ

財産ハ貧シキ人々ノ仁慈ヲ蒙ムルベキ者トハナレリト  
 大約是ノ時代ニ聖ウシリイハケサリヤ城ノ主教ニ擧ケラ  
 レケレバナシアンズ城モ其ノ管内ニ屬セシ故聖グリゴリ  
 イハウシリイヲ助ケ必ヲ尽シテ教會ノ諸事ヲ務メタリ聖  
 ウシリイハ己ガ教會ノ牧衆ノ爲ニ幸福ヲ謀ルノ切ナルニ  
 ヨリ聖グリゴリイノ承諾ヲモ待タズ彼ヲ立テ、サシマ城  
 ノ主教トナセシカバグリゴリイハ之ヲ以テ大ナル憂トナ  
 シサシマニ居テ多端ノ不便ヲ來サンヲ恐レ且アリイ教  
 ノ徒ガ彼處ノ主教座ヲ奪ハントセシ時ナレバ固ク辭ヲテ  
 受ケサリシガ遂ニウシリイノ意ニ從ヒ暫ラシ主教トナリ

タルニ偽教師等ノ分離スルヲ見テ直ニ主教座ヲ離レ去リ  
 テ他ニ居リタリ幾クナラヌシテ父ノ求ニヨリ意ヲ決シテ  
 ナシアンズニ歸リ此ノ地ノ牧群アリイノ偽教ニ幻感ヲ受  
 ケシエヘ父ヲ助ケテ教會ヲ治メタリ  
 斯クテ降生三百七十四年ニ至リ父ハ世ヲ逝リ次テ母聖ノ  
 ンナモ世ヲ逝リシカバ聖グリゴリイノ悲嘆限リナク暫ラ  
 クナシアンズノ教會ヲ治メ新任ノ主教ノ撰ハル、ヲ待テ  
 シガ其ノ後聖グリゴリイハセレウキヤニ至リ聖フェクシラノ  
 修道院ニ入り祈禱禁食ノ餘生ヲ終ヘント欲セシカド唯ア  
 リイノ徒ノミナラズ他ノ異端者偽教師等ノ毒手ニ罹リ種

々ノ窘逐苦難ヲ受ケシコンスタンタイノーポリノ正教信徒  
ノ書ヲ得テ彼所ニ赴カントスル時聖グリゴリイハ親友聖  
大ワシリイノ訃音ヲ得テ大ニ悲嘆セリ  
幾クモナクシテ聖グリゴリイハコンスタンタイノーポリニ  
來リシガ異端偽教ノ蔓延スルヲ太甚シクシテ聖堂ハ悉ク偽  
教者等ノ手ニ落ナケレバ之ヲ見テ大ニ哀痛シ一親族ノ家  
ニ留マリタルニ正教ノ人々彼ヲ欽慕シテ漸ヤク集ヒ來リ  
其ノ家、遂ニ聖堂ノ如クナリシカバグゴリイ大ニ欣コヒ  
此ノ堂ヲ「アナスタシヤ」ト稱セリ是レ復活ト云フ義ニシテ  
グリゴリイハ異端邪說ヲ闢除シ正教ノ再ヒ振興スルヲ

企望スルノ意ヲ以テ斯クハ名ヅケタリ此ノ聖堂ニ於テ恒ニ  
諸ノ信者ト祈禱ヲ献シ日々信者ヲ教訓シ殊ニ都人ノ好  
シ論辨或ハ神學上ノ議論ヲ止メハリストス教ノ睿智ナル  
所以ハ論辨駁議ニ巧ミナルガ爲ニ非ズ神學ノ理ヲ明解ス  
ルガ爲ニ非ズシテ親愛、謙遜、眞實、正義ニアルヲ教ヘ諭シタ  
リ聖グリゴリイハ都ニアリシモ前ニ村邑ニ在リシ時ノ如  
クニシテ謙遜ノ風ヲ失ハズ多人ノ集會スル所ニ往クテ好  
マズ名門貴紳ノ交遊ヲ求メズ身ニハ貧者ノ敝衣ヲ纏ヒ自  
カラ勤勞シテ食ヲ求メ貧困憂苦ニ甘シマテ之ヲ厭フ色ナ  
カリキグリゴリイテ惡ミ彼レニ敵スル神品等ハ其ノ容貌

ノ眞率ナルヲ嘲笑セシモ異端者偽教師等ハ大ニ彼ノ勢力  
 ナ怖レ屢々彼ヲ殺サントヲ計リ或ハ石礫ヲ擲チ或ハ愚民  
 ナ煽動シテ之ヲ害セントシ或ハ棒ヲ携ヘ凶器ヲ帶ビシ者  
 ナ聖堂ヲ狼籍セシメ堂中ニ集ル者ヲ逐ハントシ且グリ  
 ゴリイノ教訓ヲ聽カントヲ願フテ「アナスタシヤ」小堂ニ集  
 マル者益々多ク日ヲ追ヒ月ヲ重テ加ハリケレバ仇敵ノ憤  
 怨モ彌増シテ其ノ激怒止マザレモグリゴリイノ説教ヲ聽  
 シ者甚々多クシテ堂ノ内外ニ群集シ其ノ言ノ強クシテ力  
 アルヲコンスタンティノールポリニ於テ未タ會テ聞カザル所  
 ナリ聖グリゴリイハ議論ノ高尙ナルト其ノ意義ノ深妙ナ

ルニヨリ神學者ノ名稱ヲ得タリ

茲ニ降生三百八十年大フエオドシイ帝、皇都コンスタリテイノ  
 ールポリニ臨御アリシガ帝ハ素ヨリ正教ヲ熱ク信スル人ナ  
 レバアリイノ異端者等カ正教ノ徒ヨリ奪フ所ノ聖堂ヲ正  
 教ノ徒ニ返スベシト直ニ嚴命ヲ下シケレバアリイ徒ノ主  
 教ハ止ヲ得ズコンスタンティノールポリヨリ去リタリ斯ク  
 テ帝自ラグリゴリイヲ擧テ禮儀最ト嚴ガニソ都中第一ノ  
 聖堂ニ於テ大主教ノ如ク立テタリ此ニヨリテ全「ハリス」テ  
 アニン」ノ宿望達セシ故、衆皆歡ヒ歌ヒテグリゴリイヲ慶賀  
 セリ然レド謙遜ナルグリゴリイハ此ノ威嚴ナルヲ以テ

喜トセズ身ハ尊嚴ニシテ大臣兵士ニ圍繞セラレモ默然頭  
 ナ垂レ聖堂ニ伴ハレタリ此ク聖グリゴリイノ欣ハザルハ必  
 竟己ヲ圍メル者ノ中ニ多ク異端ノ徒有リテ中心ヨリ聖堂ヲ  
 讓ルコアラズ唯皇帝ノ威力ヲ怖レ其ノ命ニハ從ヘドモ心  
 中ニ憤ル者アルヲ悟リシ故ナリ此ノ日蒼天亦之ヲ喜ハザ  
 リシヤ黒雲天ヲ掩ヒ晴穩ナラザリシガ聖グリゴリイガ聖  
 堂ニ昇リ聖所ニ入ルヤ忽チ大陽、光ヲ放チ光線黒雲ヲ透シ  
 テ光リ輝ヤギケレバ衆人之ヲ視テ幸福ノ前兆ナリトナシ大  
 ニ欣テ異口同音ニ主教グリゴリイヨト呼ハリタリ斯ク正  
 教ノ勝利著シキヨリ異端者ノ憤怒益々深クノ彼ヲ殺害セ

シト惡謀ヲ企テ、止マザレバグリゴリイノ生命危キヲ累  
 卵ノ如ク知己朋友モ心ヲ安セズ時々グリゴリイヲ訪ヒ守  
 リタリ或ル時アリイノ徒ノ賄賂ヲ受ケグリゴリイヲ殺サ  
 シトナ計リシ一少年グリゴリイノ朋友ト共ニ入り來リシ  
 ガ奇ナルカナ聖グリゴリイノ傍ニ近ツキシ時猛可ニ戰慄  
 シテ悲嘆シグリゴリイノ足下ニ跪キテ罪ノ赦シテ請ヒシ  
 ガ坐ニ在リシ聖グリゴリイノ親友等ハ彼ノ少年ヲ引キ出  
 ダシ之ヲ究問シテ其異心ヲ懷キ來リシヲ知リ大ニ驚キ  
 グリゴリイノ前ニ至リ彼ノ少年ハ爾ヲ殺サントシテ來リ  
 シガ今ヤ大ニ痛悔シテ號泣セリト告ゲシカバ聖グリゴリ

イハ其ノ少年ヲ傍ニ招キ之ニ謂テ曰ク願クハ仁慈ナル生  
ハ爾ヲ憐ミ爾ノ罪ヲ赦免シ玉ハソコヲ唯爾誠意、神ニ向ヒ  
テ祈禱シ信實ヲ以テ神ニ奉事セヨト  
降生三百八十一年第二聖全地公會ヲ開キシ時公會ノ議長  
タリシ大主教メレタイハ公會半ハコノ上ヲ逝リシカハ皇  
帝フエオドシイ及び王城人民ノ望ミニ由リ大主教ニ撰舉セ  
ラレタル聖グリゴリイハ公會ノ議長ニ撰ハレタリ然レド  
數人ノ主教等ハ此ノ撰舉ヲ拒ミ爭論紛議、會中ニ起リシガ  
聖グリゴリイモ身体疲勞シテ固ヨリ閑靜ノ地ニ隱遁セン  
ト欲センコトナレバ起テ會中ノ主教等ニ向テ曰クハリスト

ス正教會ノ牧師等ヨ爾等ハ人ヲ導キ平和ト親愛トヲ以テ  
教訓ヲ施スベキ身ニアリナガラ斯ク爭論分離ヲ起スハ豈、  
耻ツベギニ非ズヤ我ハ三位一体ニ分レザル至聖三者ノ  
聖名ニ因テ爾等ニ請フ願クハ相互ニ平和親愛ヲ顯ハシ同  
心一致シテ吾ガ正教會ヲ治理セラレンヲ若シ我レ一人ノ  
故ヲ以テ爾等數人ノ不和ヲ醸<sup>カモ</sup>シテ爭論紛議ノ源トナラバ  
預言者イナナヲ執テ海中ニ投<sup>ナ</sup>ケ以テ風波ヲ鎮靜セシガ如ク  
我が位ヲ奪ヒ我ヲ城外ニ放テ我レ悉ク之ヲ忍フヘシ我レ  
豈ニ預言者イナナニ勝ランヤ唯、爾等、爭論紛議ヲヤメ相互  
ニ同心共和シテ親愛ヲ守レ是レ我ノ心ナリト聖グリゴリ

イガ堅ク決心セシ謙遜無量ノ言ハ痛ク公會ニ列座セシ人  
 ヲナメ自ラ愧チテ一言ノ答ヲ爲ス能ハザラシメタリ然ル  
 ニ公會終ル後聖グリゴリイハフエオドシイ大帝ニ職位ヲ解  
 カン<sub>ト</sub>チ請ヒ決然コンスタンスタン<sub>ト</sub>イノ<sub>ト</sub>ボリチ去リナシア  
 ン<sub>ト</sub>大城ニ至リ暫ラ<sub>ク</sub>留マ<sub>リ</sub>テ其ノ地ノ教會ヲ治メ又去テ  
 故郷アリアンズニ歸リタリ

聖グリゴリイ今ヤ初メテ安息ノ時至リ嘗テ望ミシ所ノ幽  
 靜ナル地ニ隱遁スルヲ得タリ是ニ於テ富饒ナル父ノ遺産  
 ヲ盡ク貧者ニ施コシテ唯樹木森々トシテ陰深ク源泉混々  
 ト<sub>ク</sub>清水ヲ浦ガスニ<sub>ク</sub>園圃ノ<sub>ク</sub>己ノ物トナシテ日々此所



ニアリテ祈禱禁食ノ間ニ光陰ヲ送り或ハ文ヲ綴リ詩ヲ作  
リ己ノ行ヒタルヲ詳ニ述ベリ其ノ遺文多クハ此處ニテ  
作リシ者ナリ総テ聖グリゴリイノ文章ハ神ト人トニ於ル  
愛ノ溢レザルナク或ハ森羅万象ノ美麗ナルヲ博ク悟リ  
シヲ述ベ或ハ神ノ照管吾人ノ本分等ヲ明ニシ或ハ聖書  
ノ注解ヲ著シ或ハ元祖ガ罪ヲ犯シ地堂ヨリ逐ハレシヲ  
論等ニテ其ノ著作ノ多キヲ枚擧スルニ暇アラズ聖グリゴリ  
イハ深ク學術辨論術ヲ貴ビ愛シ痛ク異教ノ邪ナルヲ論シ  
テ之ヲ駁セシト雖モ唯其ノ學校ノヨハ之ヲ重セリ且ツ力  
ヲ尽シテハリストス教ヲ保護シ而シテ之ニ從事スル者ニハ

殊ニ學藝ノ肝要ナルヲ證セリ  
 聖グリゴリイハ隱遁ノ身トナリ幽靜ニシテ光陰ヲ送ルニ雖  
 且教會ノ務ニ關スルヲハ全ク之ヲ棄テシテ非ズ朋友故舊  
 ト書牘ヲ往復シ且ツ其ノ訓ト慰メテ得ンヲ請フ者アレ  
 ハ之ニ論シ與ニ談シテ餘年ヲ送リシガ亞生ノ疾病モ老衰  
 モ彼ガ嚴正ナル行ヲ修ムルノ妨ヲナサズリキ  
 斯ク多年ノ間千辛万苦ヲ冒シテ功勞ヲ積ミ深ク愛スル所  
 ノ神ニ体合セント欲シテ心靜カニ忍耐シテ永眠ノ時ノ至  
 ルヲ待チ因テ書シテ曰ク爾最ト仁慈ナル主ヨ我カ老衰ト  
 白髮ナルヲ憐ミテ我カ生命ニ善キ臨終ヲ玉ヘヨ願クハ此

ノ世ノ爲ニハ既ニ死セシ者ニ生命ノ瞑ヲ玉ヘヨ痛ク疲レ  
 弱リシ者ニ安息ヲ玉ヘヨ仁慈ナル神ヨ我レ今ニ至ル迄幾  
 多ノ辛苦艱難ヲ甘ンシテ切ニ望ミシ彼ノ最ト安スラガコ  
 ノ光レル生命ヲ我ニ玉ヘヨ願クハ我ヲ神使ノ群ニ入レヨ  
 世ニ旅スル者ヲ憐レミテ三光榮ノ輝ゲル大ナル唯一ノ神  
 ノ天宮ニ導ビキ賜ヘヨト斯クテ聖グリゴリイハ降生三百  
 九十年此世ヲ逝リテ永遠無窮ノ天國ニ移リタリ其前日、彼  
 レ信義ナル一ノ輔祭ニ委託シテ精舎ニ遺リシ財產ヲ以テ  
 悉クナジアンズ教會ノ貧者ニ頒テ與フベキヲ遺言セリ後  
 五百六十年ヲ經テ降生九百五十年ノ時其ノ聖ナル不朽体

チ皇都コンスタンティノールポリニ移シ聖使徒等ノ名ニヨリ  
テ建テシ聖堂ニ安置シ後又ロマ城ニ移セリト云フ

○成徳ナルクセノフォント其妻マリヤ及ビ二子イオ

アンアルカデイノ傳七日

コンスタンティノールポリ城ニ富貴ナル有位ノ紳士アリ名ヲ  
クセノフォントト云ヘリ人ト爲リ仁善虔敬ニ容貌眞率且ツ  
謙讓ニ己ノ名族タルヲ矜ルノ心ナク常ニ好テ孃寡孤獨  
ヲ矜恤シ勉テ主ノ誡命ヲ守リ其妻マリヤモ亦、天質温良仁  
慈ナリシカバ神ハ憐ヲ此家ニ垂レ二子ヲ玉ヒ名ヲイオア  
ン及ヒアルカデイト稱セリ二親ハ常ニ心ヲ用キテ二子ニ

誨フルニ其幼時ヨリ虔敬ノ心ヲ養ヒテ主神ヲ敬愛スルヲ  
以テシ且ツ學術ノ尤モ廣益アルヲ悟リシカバイオアン  
アルカデイカ漸々長ズルニ及テ當時學術ノ最モ隆盛ナル  
フイニキヤノウイリト城ニ遊學セシメ二子ノ教育ヲシテ完全  
ナシメントシ而シテ其ノ教育ノ爲ニハ全産ヲモ惜マザリ  
キ  
斯クテ二子ハ父母ニ別テ告グ家郷ヲ發足セシガ不幸ニモ  
二子が去リシ後、幾クモナクシテ父クセノフォント俄ニ病ニ  
犯サレ死ニ瀕シトセシカバ母ハ直チニ二子ニ報道セシニ  
二子ハ父ガ病ニ臥スト聞キ驚キ急ギテ家ニ歸リ病褥ニ侍

ヘリ看守日夜情ルコトナシ父益々氣衰ヒ休疲レテ全瘞ノ望  
 ナゲレバ二子イオアン、アルカディイヲ傍ニ招キ之ニ福ヲ降  
 シ且ツ遺訓シテ曰ク我が兒ヨ我レ將ニ世ヲ逝クントス爾  
 等若シ我ヲ愛シナハ我が爾ニ教フル所ヲ務メ行ナヘヨ其  
 ハ他事ナラズ主神ヲ愛シ其ノ聖ナル箴誡ヲ以テ己ノ行ヲ  
 鑑<sup>カン</sup>ミ正シ以テ何事モ神ニ悅バレンコトヲ務ム可シ又貧者ニ  
 濟施シ嫗寡孤獨ヲ顧恤シ病者ヲ扶助シ囹圄ニ囚ヘラル者  
 ナ慰藉シ勉テ人ノ權理ヲ伸シ冤罪ニ陷イル者アラハ之ヲ  
 救援シ親睦和平ヲ主トシ信ヲ以テ朋友ニ交リ爾ニ敵スル  
 者ヲ善遇シ惡ニ酬<sup>ム</sup>ナルニ惡ヲ以テスル勿レ常ニ謙リ讓リ

テ塵潔ヲ守ル可シ神ノ聖堂ニ奉獻シ神品ト修士ヲ敬ヒ尊  
 ビ神ヲ愛スルガ爲メニ甘ノ貧困ニ陷イル者ヲ忘ル、<sup>コト</sup>勿  
 レ濟施ヲ豊カニス可シ爾ノ財産ヲ仁慈ナル濟施ニ費シテ  
 究乏ヲ招クヲ危ブム勿レ常ニ祈禱ヲ爲シ意ヲ用キテ聖徒  
 ノ訓誨ヲ聽キ、之ニ隨フ可シ爾ノ母ヲ敬ヒ常ニ其ノ意ニ從  
 ヘヨ爾ノ僕婢ヲ使役スルニ必、憐ヲ垂レ之ガ爲メニ慮リ之  
 ナ愛スルコト已ノ子女ニ於ルガ如クセヨ噫<sup>ア</sup>我が兒ヨ塵世ノ  
 生命ノ速ニ去リテ其ノ榮華ノ虛シキヲ忘ル、<sup>コト</sup>勿レ神ノ  
 戒命ヲ守レヨ神ハ必、安和平康ヲ爾等ニ賜ハン」  
 二子之ヲ聞キ悲哀ニ勝ヘズ泣涕メ曰ク父ヨ兒等ヲ遺シテ

孤トナサズ願クハ主神ニ爾ノ生命ヲ延ハスヲ祈レヨ今兒  
 等ナホ年少ガシ爾ノ模楷ト教訓トナクンハ人トナル能ハ  
 ズ  
 主神ハ實ニ一家ノ悲歎ヲ憐レミ賜ヒクセノフオントナ反常  
 シケレバ數日ナラズノ全痊シタリ此ニ於テ父子偕ニ仁慈  
 深キ主神ニ感謝ノ祈禱ヲ献シ又別テ告ケ再ダビウリトニ  
 至リテ遊學シ素志ヲ遂ケントセリ  
 兄弟ハ商船ニ乗リフニキヤニ航セシトノ纜ヲ解キシ時、天  
 氣晴朗ニノ順風ナレハ船ノ疾キ矢ノ如ク無事平安ニ渺々  
 タル大海ヲ渡リシガ忽チ風變リ漸々烈シク吹キ來リ逆浪、

天ニ漲ルコト白雲ノ如ク波聲洶々トシ大山ノ崩ルガ如ク風  
 彌々強ク波益々荒レテ船大ニ動搖シ水夫篙人ヲ始メ皆目、  
 眩ミテ倒レ今ヤ船覆リテ大洋ノ藻屑ト爲ラントセリイオア  
 ン、アルカデイイハ只管主神ニ依頼シ涙ヲ垂レテ神ガ其ノ父  
 母ノ仁慈深キ行ノ爲メニ彼等ヲ憐レミテ己ヲ救ヒ給ハン  
 トテ祈リタリ時ニ水夫篙人ハ風ノ止マザルヲ見テ小舟ヲ  
 下シイオアン、アルカデイイヲ遣シ陸地ヲ指シテ漕キ遁レタ  
 リ兄弟ハ從者ト偕ニ留マリシカ船底既ニ破レ水ノ涌キ入  
 ル泉ノ如ク今ヤ孤船ハ沈没セントセシカ不幸ナル二人ノ  
 少年ハ死ヲ待ノ外遯ル、ノ術ナク悲哀ノ聲ヲ發シ仁慈ナ

ル父母ヨ我等今、爾ニ永訣セシトス世ニ在リテ又爾ノ顔ヲ見ル能ハズ且ツ借ニ此ノ世ニ在テ一家ノ幸福ヲ得ル能ハザラントス父母ノ祈禱ハ今何ヲ爲セシヤ我等ノ善行ハ何ノ益アルヤ豈我等ノ父母ノ祈禱ハ主ニ聽カレザルカ或ハ我等ノ罪惡ハ父母ノ善行ニ勝サルガ爲メニ今我等非命ノ死ヲ遂ルカ我等先キニ我が父ノ死セントスルヲ悲慟シタルモ今ヤ我が父ハ兒等ヲ悲シミテ慰サムノ時ナカラシテ、爾、至愛ノ母ヨ我等カ伉儷親愛ノ室ヲ見ント欲セシモ今我が屍ヲ見ル能ハザラント言ヒシ時漸々氷ハ船ニ充盈シケレハ兄弟互ニ相懷キ從者ニ別ヲ告ゲ神ニ祈禱シツ、板

ヲ手ニシテ船ノ覆ルヲ待ツノ外、他事ナカリケリ斯クテ船ハ己ニ覆リテ波間ニ沈ミシガ神ノ右手ハ彼等ヲ守リ一人モ命ヲ失ハザリケルモ波ノ爲メニ漂散セラレ各異ナル地ニ漂泊セリ斯クテイオアンハ涸キテ陸地ニ達シ岸ニ上リケルモ其ノ弟ト從者トニ別ル、ノ悲ミハ己ガ救ハル、ニ勝リテ實ニ哀レナル景狀ナリイオアンハ東西モ尙ホ分チ難キ地ニ至リ弟ト從者ニ別レ身ニ一物ナク獨リ何ヲ爲スベキヤ然レトイオアン塵ク主ヲ信シ怨メル色ナク且ツ願テ曰ク願クハ至上者ノ旨成ルヲ待ン主ハ我等ノ何ヲ爲スノ善ニツ且ツ益アルヲ知ルヤ明カナリ恐ラクハ主ハ我等

ナ地ノ富貴ノ誘惑ヨリ救ハントテ船ヲ覆ガヘスニ非ザル  
 ナ得ンヤ主ハ仁慈ニシ見ザル所ナク人々ノ魂ノ皆救ハレ  
 シトテ望メリト斯ク思慮シツ、熱切ニ天ニ在セル神父ニ  
 弟及ヒ凡テ船ニ在リシ人々ヲ死ヨリ救ヒ且ツ救ノ道ニ向  
 ハシメ玉ハンコテ祈リタリ  
 イオアン神ニ祈リツ、人家ヲ尋テ海濱ニ吟サマヨヒ行クコ數里  
 ニテ遂ニ一ノ修道院ノ門ニ至リ哀ヲ訴ヘシカバ門守之ヲ引  
 テ院ニ入レシニ修士等ハ其ノ難ニ遭ヒシ事ヲ聞キイオ  
 ンナ憐レニ衣食ヲ與ヘテ修道院ニ留メタリ此ニ於テイオ  
 アン修士トナラシコテ希ヒシカバ掌院之ヲ許シ數月ヲ經

テ其ノ決心ノ眞ニ堅キヲ見テ剪髮シテ修士トナセリイオ  
 アンハ是ヨリ益々刻苦勉勵シテ道ヲ修行ヲ磨キタリ  
 且説アルカディイモ亦一地ニ漂泊シ兄ノ危難ヲ免レンコテ  
 祈リ其ノ生別ヲ悲歎シツ、一ノ村邑ニ至レバ仁慈ナル人々  
 或ハ衣ヲ與ヘ或ハ食ヲ與ヘテ慰藉セリ此所ニ於テアルカ  
 ディイ聖堂ニ到リ至愛ナル兄ノ無難ヲ祈リツ、遂ニ其丘ノ  
 傍ニ寢リシガ夢ニ兄イオアン來リテ我が弟アルカディイ  
 我がコテ哀ムコ勿レ我レ神ノ仁慈ニ依リテ生ケリト云フ  
 ナ見テ始テ兄ノ恙ガ無キヲ知リ欣喜ニ堪ヘザルモ心志未  
 タ定マラズ何ヲ爲スベキヤヲ知ラザリキ或ハ家ニ歸ラン

カ然レド我レ獨リ歸リナバ父母必ズ悲歎ニ堪ヘザルベシ  
 ト思ヒシカバ父ノ常ニ修士ノ行狀ヲ稱賛スルヲ回想シ遂  
 ニ志ヲ決シテ修道院ニ入ラントシイエムサリムヲ指シ行  
 キタリ途ニ容貌嚴正ナル一修士ニ逢ヒアルカデイイ伏拜シ  
 テ曰ク聖ナル父ヨ我が爲メニ祈禱セヨ蓋ハ我レ悲哀ニ堪  
 ヘサレバ也」修士曰ク悲シムト勿レ爾ノ兄ハ恙ガナシ且ツ  
 船中ノ者モ皆救ハレタリ爾ノ兄イオアン今修道院ニ入リ  
 テ修士トナレリ爾必ズ兄ニ逢フヲ得ン」アルカデイイ一面  
 識モナキ人ノ斯ク言フヲ聞テ大ニ驚キシガ此ノ逢フ所ノ  
 修士ハ主神ヨリ人心ヲ洞知スルノ殊恩ヲ得タル者ナリ修

士ハアルカデイイノ請ニヨリテ之ヲ聖ハリトシテ大修道院  
 ニ伴ナヒ借ニ居ルト一年ニシテ修士身生ノ定則ヲ誨ヘテ又  
 野ニ遁レタリアルカデイイハ修道院ニ留リ熱心ニ已ノ職ヲ  
 尽シ日夜唯主神ノ爲ニ辛勞セリ  
 且説故郷ニアル父母ハ二子ノ家ヲ出デシ後二年ヲ經ルモ  
 音信ナケレバ大ニ悶憂シ鬱々トシテ常ニ樂マズ只管二子ノ  
 事ヲ想ヒ居リシガ遂ニ忠信ナル家僕ヲフニコキヤコ遣ハ  
 シ二子ノ安否ヲ訪ハシメタリ家僕ハ海路ヲ取リウヰリト城  
 ニ至リ力ヲ尽シテフニコキヤノ諸城ヲ經廻リ東ニ奔リ西ニ  
 走リ四方ヲ探索スレト兄弟ノ王城ヲ去リシ後如何ナリシ



ヤ之ヲ知ル者ナキユヘ其ノ消息如何ヲ知ルノ術ナク空シ  
 シ還ラントシテ旅館ニ宿ル時一修士アリ容貌大ニ變ズル  
 モ先キニイオアン、アルカデイニ從ヒ僧ニフイニキヤニ航  
 セシ從者中ノ一人ナルヲ知リ因テ郎君ノ消息ヲ問ケレ  
 ハ修士、長歎息ノ航海ノ時、船遂ニ覆リ憐ムヘシ郎君等、皆溺  
 死シ船中ニ在リテ能ク生命ヲ全スル者恐ラクハ我レ一人  
 ナラン故ニ主家ニ歸リ此ノ訃音ヲ傳ヘ其ノ悲ヲ見ソヨリ  
 ハ寧ロ歸ラザルニ若カズト志ヲ決メテ斯ク修士トハナリ  
 タリト其ノ危難ニ遇ヒシ始末ヲ語リタリ  
 忠信ナル僕ハ之ヲ聞テ大ニ悲哀シ此ノ修士ノ如ク誓フク

ハ主家ニ歸リテ此ノ訃言ヲ告ルヲ欲セザリシガ後、意ヲ  
 決シテ主家ニ歸リケルモ其ノ聞キ知ル所ヲ顯ハニ主君ニ告  
 グルニ忍ビスシテ言ヲ設テ二郎子ハ恙ガナシ然ルニ二郎子  
 ガ爾ニ呈スル書翰ヲ途ニ失ナヒシト云ケルモマリヤハ僕  
 ノ憂フルヲ見テ曰ク爾、實ヲ以テ我ニ告グヘシト詰問シケ  
 レハ僕ハ偽リ掩フニヨシナク涙ヲ垂レ逐一告グルコ聞ク  
 所ヲ以テセシカバ母、之ヲ聞キ悲慟ニ勝ヘズ哭泣嘔血シテ  
 氣絶シ時ヲ經テ漸ヤク蘇生シタリ噫マリヤハ不幸ナル哉  
 一時ニ老後ノ慰藉ト頼メル愛子二人ノ變死ヲ聞キ其ノ悲  
 哀ハ實ニ想フ可シ一家ノ悲歎夫レ幾ハクゾヤ然レドマリヤ

ハ主神ヲ篤ク信ズルカ故、失望セズ謹テ神ノ聖旨ニ服従シ  
 ナリク主ノ名ハ讃揚セラル可シ主ハ始メ我等ニ二子ヲ賜  
 ヒ今、之ヲ奪フ其ノ爲ス所皆其ノ聖旨ニ屬セリ蓋シ主ハ何  
 物カ我等ニ益アルヲ知リ玉ヘバナリ」此ノ時夫ノフオン  
 トハ家ニ在ラザレバ唯如何シテ良人ヲ慰藉セント焦思セシ  
 ガ夫、歸ル後暫クノ間其ノ訃音ヲ告ケザルモ遂ニ蔽フ能ハ  
 ズノ船ノ覆リタルヲ以テ夫ニ告グシコ夫、之ヲ聞キ驚愕  
 シテ殆ント氣ヲ絶スルコ至リシガ夫モ亦神意ニ任セ通宵  
 寢テズシテ二子ノ救贖ヲ祈リ明旦ニ至リテ寢リニ就ケバ  
 主ハ己ノ仁慈ヲ顯ハシテ奇夢ヲ玉ヒ二人ヲ慰藉シテ二子

ガ光榮赫々タル主イエスキリストスノ前ニ立テ見セシ  
 メナリ

クセノフオントハ船覆ルモ二子未タ死セズト爲シ自ライエ  
 ルサリムニ至リ主ノ墓ニ詣リテ二子ノ平安ヲ祈ラント欲  
 シ家事ヲ以テ忠信老實ナル家僕ニ托シ妻マリヤヲ携ヘテ  
 路ニ上リ行々、貧者ニ濟施シパレステナニ至リ諸ノ修道院  
 ナ訪ヒ謹テ主ノ聖蹟ヲ巡拜スルノ時ニ不圖ハカクザリキ初メイエオア  
 ン、アルカディニ隨行セシ僕ニ逢ヒシガ僕モ亦船覆ルノ后  
 二郎君ノ消息如何ヲ知ラザレバ主君カ既ニ聞キ知ルノ外、  
 他事ヲ告ル能ハザリシ然レド後、此ノ夫妻ヲ慰藉シ其ノ望

ヲ達セシムル者アリ蓋ハ神ノ仁慈ニ依リテ夫妻ハ始メアル  
 カダイイヲ導テ修道院ニ至リシ聖ナル老翁コソ人心ヲ洞  
 知スル者ニ逢ヒタルナリ老翁夫妻ノ名ヲ呼ンテ曰ク悲哀  
 スルヲ勿レ爾ノ子ハ活キ永ラヒテ恙ガナシ神ハ先ニ二子  
 ノ爲メニ天ニ備フル光榮ヲ以テ爾等ニ顯ハンタリ爾等宜  
 シク神ニ祈禱シテイエルサリムニ行ク可シ必ズ二子ヲ見  
 ルヲ得ント虔敬ナル父母之ヲ聞キ大ニ欣ビ勇ニ勵テ祈禱  
 シツ、途ヲ急キシガ此ノ時己ニ老翁ハイエルサリムニ至  
 リ彌<sup>ミ</sup>山ニ程近キ復活堂ノ傍ニ憩<sup>レ</sup>ヒタルニ年少ノ一修士  
 アリ進<sup>ニ</sup>近ツキ聖翁ニ揖<sup>シ</sup>タリ是レイオアソ己ノ修道院

ヲ出テ聖蹟ヲ巡拜スルナリ翁一見シテ其ノ誰タルヲ知  
 之ニ謂テ曰ク爾、イオアソ何所ニ在リシヤ爾ノ父母爾ヲ尋  
 ヌ爾モ亦爾ノ弟ヲ尋ヌレトテラソ「イオアソ此ノ言ヲ聞キテ  
 大ニ驚キ其ノ足下ニ俯伏シテ曰ク願クハ我が弟ノ在ル所  
 テ以テ我ニ告ケヨ蓋ハ我レ彼ノヲ悲シミテ心ヲ慰ムル  
 ノ時ナシト」聖翁曰ク我が傍ニ坐セヨ今爾ノ弟ヲ見ルヲ得  
 ソトイオアソ進テ翁ノ傍ニ坐セシガ暫クアリテ一修士來  
 リ翁ヲ見、大ニ喜悅シ其ノ足下ニ俯伏セリ是レアラカダイ  
 トナルモ彼等兄弟相偕ニ修士ノ嚴肅ナル諸規ヲ守リ祈禱  
 禁食ノ其ノ容体、太甚ニ變シケレハ兄弟互ニ其ノ誰タルヲ

悟リ得サリシナリ翁ハアルカディイニ坐テ與ヘ而シイオア  
 ソニ向ヒ生所姓名ト其ノ來歴ヲ問ケレバイオアン具サニ  
 答テ曰ク我ハ王城ニ生レ一紳士ノ子ナリ弟アルカディイト  
 俱ニウイリトニ遊學セントシテ海ニ航スル時、偶々颶風ニ逢  
 ヒ船忽チ沈没シタリト言未タ終ラザルニアルカディイ感情  
 禁ズル能ハズ呼テ曰ク我が至愛ナル兄イオアント此ニ於  
 テ翁遂ニ語リテ曰ク我レ爾等ノ兄弟タルヲ知ラザルニ非  
 ズ然レト今ニ至ルマテ默シテ之ヲ云ハサリシハ爾等ヲシ  
 テ自ラ悟ラシメンガ爲メナリ  
 兄弟互ニ相擁<sup>イタキ</sup>テ大ニ喜悅シ感泣ニ堪ヘズ二人ヲ死ヨリ免

カレシシヲ救フ道ヲ示シ玉ヒシ神ニ感謝シテ之ヲ讃揚セ  
 リ  
 茲ニ二日ヲ經テクセノフオント及ヒマリヤノ二人ハイエル  
 サリム城ニ到リ聖殿ニ昇レハ人心ヲ洞知スル聖翁二弟子  
 ナ從ヘ至ルニ逢ヒ其ノ足下ニ俯伏シテ約ノ如ク其ノ愛子  
 ノ在ル所ヲ告ケントフテ請ヘリ二子ハ其ノ父母タルヲ信ル  
 ト雖モ翁ノ命ニヨリ知ラザル爲<sup>メ</sup>シテ頭ヲ垂レ其ノ顔ヲ顯  
 ハサハリキ時ニ翁曰ク我が爲ニ筵ヲ備ヘヨ我レ二弟子ト  
 偕ニ行テ爾ノ子ノ在ル所ヲ告ントシセノフオント、マリヤハ  
 欣喜ニ堪ヘズ急ニ旅館ニ歸リ筵ヲ備ヘ翁ノ到ルヲ待テタ

ルニ暫クソ翁ハ二少年ヲ從ヘテ其筵ニ臨メリ二人聖翁ノ  
 來臨ヲ謝シ之ニ請フテ曰ク聖ナル父ヨ我カニ子何レノ所  
 ニ在リテ何ヲ爲セシヤ我ニ告ケヨト翁曰ク二子ハ己ノ教  
 ノ爲メニ勤勞セリ父母曰ク願クハ主ヨ二子ヲノ爾ノ田莊  
 ノ忠信ナル穡者ト爲シ玉ヘヨ蓋シ主ハ我等ヲノ萬事善良  
 ナラシムレバナリト  
 シセノフオント沈黙スルヲ少時ニソ又言テ曰ク聖ナル父ヨ  
 爾ハ善良ナル弟子ヲ有テリ我レ初メ彼等ヲ見ル時ヨリ我  
 ガ心之ヲ愛スルヲ頻リナリ噫我ガ子モ亦タ是ノ如クナラハ  
 何ノ幸カ之ニ加ガントト時ニ翁ハアルカダイヲ願ミテ曰ク

我ガ子ヨ爾何所ニ生レ何所ニ人トナリシヤ詳カコ貴客ニ  
 告ケヨトアルカダイ感情禁ズル能ハズ音聲震懼シテ王城  
 ニ生レ敬虔ナル父母ニ教育セラレ兄弟僧ニワイリト城ニ遊  
 學セント航海セシトキ海上颶風ノ爲メニ船ノ沈没セシト  
 ナ語り言未タ終ラザルニクセノフオント及ヒマリヤハ其ノ  
 己レノ子タルヲ悟リ之ヲ擁キ之ニ接吻シ是ノ如キ喜悅ヲ  
 與ヘ一家ノ悲哀ヲ慰ノ玉ヒタル主ヲ讚揚シテ感謝セリ  
 斯クテクセノフオント及ヒマリヤモ端ナキ浮世ヲ捨テ修道  
 院ニ入リ二子ノ如ク修士トナランヲ希ヒコンスタントンテ  
 ノトボリニ在ル財産ヲ賣却シテ僕婢ニ金銀衣服ヲ與ヘテ

之ヲ放子貧者ニ濟施シ仁善ナル行爲ヲ爲シタリ主神ハ彼等ニ奇蹟ヲ行ラシ力ヲ玉ヒ終身イエルサリムニ居リ安然ニ逝リタリイオアン及ビアルカデイモ父母ノ如ク嚴正ナル行爲ヲホシ年老テ後世ヲ逝リタリ或ハクセノフガント子イオアンハ彼ノ有名ナル聖イオアンレストワイチニクナリト云ヘリ

○八日

此ノ日降生四百三十八年ニ聖金口イオアンノ聖軀ヲコマシヨリコンスタンティノポリニ移スチ紀念セリ十一月聖金口イオアンノ傳傳ニシテハ此ノ傳ニシテハ

參看スヘシ

○我等ノ父成德ナルエフレム、シリノ傳九日

成德ナルエフレムハ第四世代ノ初メメソボタミヤ州ノニシワイヤ城ニ生レタリ其父母ハ貧シキ農夫ナレニ善良敬虔ナルハリスステアニンナリ後エフレム書シテ曰ク我ハ諸ノ父老ヨリハリストス教ヲ受ケ我が父母ハ主ヲ畏ルベキヲ教ヘタリ我ハ敬虔ナル人々ノ中ニ居リ數ハリストスノ爲ニ窘逐ヲ受クルヲ聞キタリ或ハ諸父ガ裁判官ノ前ニ立テ主ヲ識認スルヲ目撃セシモ少ナカラズ且ツ我ハ致命者ノ親戚ナリ我ガ祖先ハ人々ノ門ニ立チ憐ミチ乞ヒテ生命ヲ繋キシ巧者ニシテ祖父ノ時ヨリ初テ農夫トナリ我ガ父

母モ亦其ノ業ヲ務メタリト  
 聖エフレムハ能ク此等ノ事ヲ記憶シ且ツ朝夕善良ナル鑑  
 鑑ト正シキ事ノミ見聞スレヒ少年ノ時ニハ輕躁、浮薄、心、頑  
 ニシテ慾情ヲ制セズ近隣ノ人々ト爭論シ人ヲ嫉ムノ心深  
 ク怒リ易キ者ナレバ後、痛ク之ヲ悔ヒタリトゾ  
 事ノ如何ニ論ナク、神ノ恩佑ニヨリテ彼ノ心志一變シテ遂  
 ニ成徳ノ人トナレリ  
 或ル時エフレム野ニ至リシガ日巳テ暮レテ宿ル可キ所  
 ナケレバ野ニ宿シテ羊ヲ牧スル者ニ一夜ノ宿ヲ請ヒタリ  
 シカ不圖ハカラサウキ此ノ夜、狼來リテ數頭ノ羊ヲ噛ミ去ルニ逢ヒタ

リ牧主ハエフレムヲ疑ヒ盜人ヲ導ヒキ心ヲ合セテ羊ヲ盜  
 ヲリト爲セシガエフレム辨解スルニ由ナク遂ニ捕ハレテ  
 獄舎ニ下サレタリ此ノ獄舎ニ不正ノ裁判ヲ受ケテ繫ガレ  
 タル者二人アリテエフレムト共ニ裁判官ノ不正ナルヲ憤  
 リ忍ビ難キヲ忍ヒ受クベカラザル罰ヲ受ケ居タリシガ一  
 夜夢ニエフレムニ告ル聲アルヲ聞ク曰ク爾、敬虔ナル心ヲ  
 起シ神ノ照管ヲ思ヒ曾テ己レノ爲ス所ト思フ所ヲ細ニ願  
 ミヨ爾、今罪ナクシテ罰セラル、ハ其ノ先ニ犯ス所ノ罪惡ノ  
 爲メナルヲ悟ラシトエフレム大ニ感シ己レ先ニ爲セシコ  
 ナ願ミテ實ニ罰セラル、ベキ理アルヲ悟リ此事ヲ以テ他

ノ二人ニ告グシニ彼等モ亦思念スルヲ稍々久シクノ未ダ  
 久シカラザル前ニ今罪ナクシテ罰ヲ受ルヲニ殆ント相似  
 タル罪ヲ犯シタルモ人ノ知ルナグシテ罰ヲ免レシヲ悟  
 リタリ成徳ナルエフレム後、人ニ語り曰ク我レ此ノ事ヲ同  
 囚ノ人ト語ル時大ニ戰慄シタリ蓋ハ應報ノ甚タ明カナル  
 テ以テナリトエフレム心ニ思フ所ヲ以テ同囚ノ人々ニ語  
 リシカバ皆意ヲ注キテ之ヲ聽キ遂ニ善良敬虔ナル者トハ  
 ナレリ是ヨリノ聖エフレム深ク己レヲ願ミ神ノ箴誡ヲ讀  
 マザルト己レノ罪アルヲ認メ心安カラザリシガ後又靈夢  
 ナ見ルコト二回ニ及ヒシカバ人々ヲ善ト益トニ導キ玉フ所ノ

神ノ照管ヲ信スルコト彌々深ク益々堅シトテ  
 幾クモナクシテエフレム裁判官ノ明察ヲ得、罪ナキコト分明  
 コト免サレタリエフレム善良敬虔ノ心ヲ以テ主ヲ愛スル  
 コト益々厚ク無量ノ謙遜ヲ以テ己ノ罪惡ヲ認メ一心ニ神ニ  
 近ヅカンコトヲ冀ヒ先キノ輕躁浮薄ノ風ハ少シモ存セザリ  
 キエフレムハ一隱士ニ隨テ聖書ヲ學ビ又ニシワイヤノ主教  
 聖イアコフノ弟子トナリシニイアコフ甚タエウフムヲ愛  
 シ懇切ニ之ヲ教ヘ後チエフレムヲ携ヘテニケヤノ公會ニ  
 參與セリ又ニシワイヤ城ノベルシヤ王ニ圍マレシ時ノ如キ  
 ハエフレムハ即イアコフト共ニ居民ヲ慰サメ神ニ祈禱シ



テ彼等ノ心ヲ堅メリタ  
 聖イアコフノ眠リシ後成徳ナルエフレムハ益々敬虔ノ心  
 ナ養ヒ又學術ヲ修ムルガ爲メ良師ヲ得ント欲シエテッサ城  
 ニ至リタリ然レト衣食ヲ得ルニ由ナク浴舖ノ備者トナリ  
 暇アレバ祈禱及ヒ學習シテ道ヲ修メシガエテッサ城ハ固ヨ  
 リ異教ノ徒多ケレバエフレム奮テ神ノ聖言ヲ説キ異教ノ  
 徒ヲ神ニ向ハシメントシタリ  
 或ル時一人ノ敬虔ナル者エフレムノ説教ヲ聞キ其ノ智ノ  
 明カナルニ感シ交ヲ結ヒ遂ニエフレムヲノ曠野ニ隱遁ナ  
 サシメタリエフレム曠野ニ至リ洞穴ニ棲ミ近傍ニ住セシ

一人ノ敬虔ニシテ明智ナル隱士ノ教ヲ受ケ身ヲ修メ聖書  
 ナ學ヒ至心至意ニ神ヲ思念シ遂ニモイセイノ書ノ註解ヲ  
 著セリ  
 幾ハクナラズシテエフレムノ聖行四方ニ達シケレバ人々  
 就テ其教訓ヲ受ケントシテ四方ヨリ群集セリ傳ヒ云フ一  
 隱士夢ニ衆神使ノ書ヲ捧グルアリ一神使曰ク誰レカ地上  
 ニ在リテ是ノ書ヲ受クルニ堪フル者ヤト聲アリ曰ク謙遜  
 深キエフレムナリト神使因テ書ヲ授ケテ去ルヲ見タリト  
 成徳ナルエフレム名聲日ニ揚リ月ニ盛ンナリシガエフレ  
 ムハ之ヲ厭ヒ人跡ノ絶ヘタル深野ニ遯レントセリ然レド

隠レスソ世上ニアルハ或ハ人々ノ利益ナラソト悟リ因  
 テ深野ニ静默孤棲スルノ念ヲ絶テ市街ニ出テ人々ヲ教訓  
 セリ傳ヒ云フ是レ神使ノ勸メニ因テ然セシナリト  
 又傳ヒ云フ成徳ナルエフレムガ幼年ノ時神、其父母ニ葡萄  
 樹アリ小兒ノ口ヨリ出テ大ニ實ヲ結ビシガ諸々ノ飛鳥來  
 リテ之ヲ啄ミシモ果實倍々多キヲ加フルノ奇夢ヲ賜ヒテ  
 エフレムカ將來ノ職分ヲ預告セラレタリ實ニエデッサノ人  
 ノミナラズ己ニソ全シリヤ及ヒメソボタ・ミヤノ人民舉テ  
 聖エフレムガ隱遁ノ際ニ熟セシ所ノ靈果ヲ以テ養ハレザ  
 ル者ナカリキエフレムノ文章今尙ホ存セリ意ヲ注キテ之

テ讀ム者ハ必ズ親愛謙遜ノ心ヲ起ササルヲ得ザルナリ  
 エフレムシリノハ極メテ謙遜ニ己ヲ處スル尤モ嚴正ニ  
 シテ常ニ言フベカラザル主神ノ恩佑ヲ希ヘリエフレムガ  
 文章ノ一ニ云フアリ曰ク一日我レ夙ニ起キ二兄弟ヲ伴ヘ  
 テ幸福ナルエテッサ城ヲ出テ仰テ天ヲ視ルニ天ハ蒼々トシ  
 テ明鏡ノ如ク星辰煌々トシテ輝クヲ見、驚テ曰ク星辰ノ煌  
 々タル此ノ如シ況ヤ救主再臨ノ時、神ノ聖旨ヲ行フ諸聖人  
 ガ言フベカラザル主ノ光榮ヲ以テ輝サルハ幾許ゾヤト  
 又云フ我レ主ノ畏ルベキ降臨ノヲ念フモ我が骨骸慄シ  
 我が魂ト肉軀トハ震怖セリ且ツ我レ痛心哀哭シテ嘆ソテ

百  
曰ク我レ罪深キ者何ノ顔ガ彼ノ畏ルベキ公審判ニ逢フチ  
得ンヤ、我何チ以テ畏ルベキ審判者ノ寶座ノ前ニ立ツチ得  
ンヤ、我レ節操ナキ者何ソツ完全ナル人々ト借コ列スルヨ  
得ンヤ、我が如キ善果ナキ者何ソツ信義ノ善果ヲ結ビシ者  
ノ數ニ入ルチ得ンヤ、諸聖人カ天ノ宮宅ニ入り互ニ相知ル  
時我レ何チカ爲スヘキ、又誰レガ吾チ識ル者アランヤ、義人  
ハ天ノ宮宅ニ入り、罪人ハ烈火ニ投セラレ、諸聖致命者ハ己  
ノ創チ示シ諸勤行者ハ己レノ善行ヲ顯ハサントス、唯我ハ  
惰怠魯愚ノ外一モ人ニ示スコチ得スレト  
成徳ナルエフレムハ司祭ノ神職ニ撰ハレシガ謙遜ニノ已

レ機密ヲ行フニ當ラザル者ナリトシ敢テ聖体機密ヲ行ナ  
ハザリシ實ニ教會ノ牧師タル者ノ榮飾タルベキ此ノ如キ  
ノ謙遜ト高尙ナル徳義トヨリ其ノ後エフレム主教ノ神  
職ニ選ハル、モ固ク辭シテ受ケザレハ素ヨリ法教ノ權有  
ラザレト當時エデッサ教會ノ信者ヲ騒動セシ僞教ヲ能ク防  
キタリ殊ニワルドサント云ヘル僞教師カ己レノ説テ詩ニ作  
リテ一時大ニ傳誦セシカハメソポタミヤ及ビシヤリ地方  
ハ其ノ眩惑スル所トナレリ因テ聖エフレム之ヲ防グノ便ヲ謀  
リ正教ノ要理ヲ詩ニ作り之ヲ誦セシメケレハシリヤ及ヒ  
メソポタミヤノ人々ハ聖エフレムガ神ノ默示ニヨリ作り

シ詩ヲ爭ヒ誦シ遂ニワルテサンノ詩ヲ忘ル、ニ至リタリ  
 斯クテエフレム諸人カ神學上ノ一ヲ論議スルハ是レ爭論  
 不和ヲ起スノ源因ナリトシテ深ク之ヲ愛ヒ之ヲ防ク一ヲ  
 勉メタリ  
 聖エフレム謂フアリ曰ク召テ蒙リテ教會ニ入リシ人々ヨ  
 徒ニ論議ヲ好ムハ遂ニ眞理上ニ無益ナル問ヲ起スニ至ラ  
 ン嫉妬競争ノ念ハ人ヲノ頑陋ナラシメ聖書ヲ講讀スルモ  
 敬虔ニ進ムカ爲ニ非ズ己レノ惑ヲ飾リ傳へ且ツ論辨ニ  
 巧ミナランガ爲ナリ主ハ唯誠ニ主ノ道ヲ行フ者ニシテ練  
 達ヲ賜フテ之ヲ賞セン至愛ナル人々ヨ日々ニ凡ソ勞苦重

ク負マ者我ニ就ケ我爾ニ安ヲ賜ハハ我ハ溫柔謙遜也我カ  
 軌ヲ負フテ我レヲ學ハハ則爾ハ心安ヲ獲ン蓋シ吾軌ハ易  
 シ吾負ハ輕シト云ヒシ至福ナル聲ヲ聞クヘシ主ハ爾ノ平  
 安ヲ増加シ且ツ爾ニ永キ生命ヲ賜フテ約セリ近ツキ就ケ  
 ヲ怖ル、一勿レ主ハ万善ナリ彼ハ諸惡ヨリノ隱所ナリ諸  
 々ノ疾病ヲ痊シ博ク生命ヲ施サントス主ハ爾ノ爲ニ父ノ  
 懷ヨリ來リ爾怖ル、一ナク彼ニ就ク一ヲ得ルガ爲ニ胎マ  
 レタリ爾ノ諸病ヲ療サンガ爲ニ人トナリ大ナル仁慈ト愛  
 憐トナリ以テ爾ヲ召シ玉ヘリ爾等聖ナル福音ヲ受ルガ爲ニ  
 爾ノ心ヲ備へ世俗ノ煩累ノ爲ニ爾ノ心志ヲ眩マサル、勿

レ日用欠クベカラザル者ノ爲ニ勞役シ奢侈ノ爲ニ勞スル  
 勿レ足ルヲ知レハ平安ヲ得ン若シ他人ニ勝ランコトヲ欲セ  
 バ勞苦甚モ甚シ望ムベカラザルヲ望メバ恒ニ憂アリテ  
 世ヲ繁忙ノ間ニ送ラザルヲ得ズ主ノ謂ヒシ如ク求ムベキ  
 者ハ唯一ナリ兄弟ヨ魂ノ爲ニ苦慮シテ日ニ來世ノ生命ノ  
 備ヲ爲セ肉身ノ慮リノミニ光陰ヲ費スコトナカレ肉体ノ飲  
 食ヲ要スルガ如ク魂モ亦其需ムル所アルヲ知ルヘシ肉身  
 若シ飲食セザレハ生命ヲ保ツ能ハザルガ如ク魂モ亦神靈  
 ノ智能ヲ以テ養フコトナクンバ必ズ死ニ至ラン人ハ靈魂ト  
 肉躰トヨリ成レリ故ニ救主曰ク人生ヲ得ル唯餅ハミナラ

ズ、ト爾等家ノ善キ操會者トナリ魂ニハ魂ノ食、肉体ニハ肉  
 体ノ食ヲ與ヘヨ魂ノ饑渴窮乏ヲ顧ミズノ唯肉体ノミヲ養  
 フテ魂ヲ死セシムルコト勿レ之ヲ養フニ神ノ聖言、聖詠、聖  
 歌、聖書、講讀、持齋、祈禱、痛悔ノ涙、望及ヒ來世ノ幸福ヲ思フ以  
 テセヨ総テ此等ノ諸徳ハ魂ノ爲ニ生命及ヒ食物ナリ  
 聖エフレムノ教訓ハ彼レノ存在中ヨリ公祈禱ノ時、常ニ誦  
 讀セラレタリ凡ソエフレムノ言ハエデッサ城ニ眞理ヲ鞏メ  
 ケレバワレント帝、力ヲ尽シテアライ教ヲエデッサ城ニ布カ  
 ントスルモ一人ノ之ヲ信ズル者ナク之ガ爲メコエデッサノ  
 神品ニテ窘逐セラレ、者八十八人ニ及ベリト云フ

成徳ナルエフレムハ徳高ク智優リタル大勤行者ノ儀範ニ  
 効ハント欲シシリヤ、エギベトノ各地ヲ周遊シテ隠士ヲ訪  
 ヒ遂ニケサリヤニ至リ聖大ワシリイニ遇ヒタリ傳ヒ云フ  
 聖エフレム聖堂ニ入り聖ワシリイガ教ヲ説クヲ聞キ思ハ  
 ズ呼テ曰ク嗚呼爾ハ誠ニ大ナリ聖神實ニ爾ト偕ニ語レリ  
 ト祈禱終リテ後ワシリイ彼ヲ招キ其ノ聖堂ニテ聲ヲ揚ケ  
 シユエンヲ問ヒシニエフレム答テ曰ク我レ白鴿ガ爾ノ肩ニ  
 立チ且ツ火氣焰々トシテ爾ノ口ヨリ出ルヲ見タリト斯ク  
 主ハ奇異ナル示顯ヲ以テ己ノ撰ヒシ奉事者ニ他人ノ爲ニ  
 秘シテ顯ハサバレルヲ悟ルヲ得セシメリ

聖エフレムエデッサニ還リシガ餘生ヲ閑靜ノ地ニ送ラント  
 欲シ城ヲ去リテ曠野ニ至リ洞穴ニ世ヲ避ケシモ人ヲ愛ス  
 ルノ切ナルニヨリ再タヒ世ニ出テタリ其後エデッサ城大ニ  
 饑饉シ且ツ惡疫流傳セシカバエフレムハ艱苦ニ遇ヒシ人  
 ヲチ力ノ及フ限り之ヲ助ケ己レ素ヨリ一物モナケレバ富  
 ム者ヲ諭シ金穀ヲ分タシメ自ラ之ヲ幹理シ病室ヲ設ケ最  
 ト懇切ニ不幸ナル人々ヲ助ケテ之ヲ看護セリ  
 其後幾シモナクシテ聖エフレム病ニカ、リ死將ニ近カラ  
 ストスルヲ知リシカバ來リテ病ヲ訪ヒル人々ニ教誨シ己  
 ノ弟子ニ福ヲ降シ且ツ戒メテ厚ク葬ルヲナカラシメ衆ノ

爲ニ祈禱シ終リ安然トシテ主ニ復歸セリ實ニ降生三百七十八年ナリ

聖エフレムハ教訓ノ高尚ナルニヨリテシリヤノ預言者ノ名ヲ得タリト云フ

○十日

此ノ日聖捧神者イグナテ、イノ聖軀ヲロマヨリアンティオヒヤニ遷座スルヲ記憶シ又ベチエルシクノ閉戸者、成徳ナルラウレンティイノ紀念祭ヲ行ヘリ

○十一日

此ノ日又聖大ワシリイ、神學者グリゴリイ、金口イオアンノ

三大主教ヲ合祭セリ蓋シコンスタタノイポリノ信者等、三主教中、誰カ天國ニ在リテ大ナル者ヤト爭論シ遂ニ三黨派ヲ結ブニ至リシガ降生一千〇七十六年此ノ三人、一ノ主教(イオアン)ニ顯ハレ神ノ前ニ在リテ同一ナルヲ示セシカバ其ノ爭論モ遂ニ止ミ是ヨリシテ三主教ノ合祭ヲ行フ也  
○此ノ日又第三世代ノ頃イタリヤニ於テ致命ノ榮冠ヲ戴キシ主教聖イッポリトヲ紀念セリ

○奇蹟行爲者、清廉ナル醫士聖キール、イオアン及ビ致命女聖アフナシヤ及ヒ其ノ三女ノ苦難十二日

聖キールハアレキサンドリヤ城ニ生レタル人ナリ幼童ノ

時ヨリ醫術ヲ學ヒ長ズルニ及ヒ温厚徳實ニ貧者ヲ憐ミ  
 病者ヲ痊ヤス常ニ藥價受ケズシテ博ク濟施ヲ行ナヒ且ツ  
 病者ヲ訪診スル時之ヲ慰藉ソ眞理ヲ説キ魂ノ病ハ肉体ノ  
 病ニ較レバ甚タ恐ル可キガ故ニ務メテ罪惡ヲ避ク可ギ  
 ナ誨ヘケレバ異教人等其ノ説諭ヲ聽キ己レノ迷ヲ捨テ主  
 ニ歸依スル者夥多シカリキ  
 當時ノ皇帝デイオクリティアン嚴シク「ハリスティアニ」ヲ窘逐  
 シキールヲ捕縛スルヲ命ジケレハキールハアレキサ  
 ドリヤヨリアラビヤニ遁レ彼所ニテイオアント云ヘルニ  
 デッサノ年少ナル兵士ニ遇ヒヨリ抑此ノ兵士ハ主神ノ爲ニ

万事ヲ捨テタル者ナレバキールニ隨テ聖書ヲ學ヒ其ノ深  
 キ行ヲ以テ身ヲ修ムル軌範トナシ借コ病者ヲ顧恤シ神ノ  
 聖言ヲ傳フルガ爲ニ力ヲ尽シタリ  
 斯クテ暫ラクノ後聖キールハ異教人等ガ正教ヲ奉ゼシ婦  
 アフナシヤ及ビ其ノ少女フエオンタイスタ、フエオドダイヤ及ヒユ  
 ウドキヤノ四人ヲ捕縛シ法庭ニ送致スト聞キ其ノ或ハ苦  
 難ノ爲ニハリストスニ反離セシテ恐レイオアントト俱ニ  
 彼等ノ在リシカノ<sup>ユキ</sup>城ニ之テ彼等ノ心ヲ堅メントシ自ラ  
 生命ノ危キヲ知ルモ人ヲ愛スルノ切ナルコヨリテ諸々ノ  
 辛苦艱難ニ耐ヘカノ<sup>ユキ</sup>城ニ到リ獄舎ニ行キアフナシヤ及



ヒ其ノ三女ニ遇ヒ堅ク信仰ヲ守リ我等ノ救贖ノ爲ニ寶血  
 ヲ十字架上ニ流シ玉ヒシ主ノ爲ニ己ノ生命ヲ惜ムコトナク  
 其ノ聖名ヲ承ケ認ムヘキコトヲ勸メタリシガ市尹シリアン  
 此ヲ聞キキール及ヒイオアソナヲ召致シ威力ヲ以テ二人ヲ  
 詰責シテ曰ク爾等若シ偶像ヲ拜シテ祭ヲ献ヒズンハ吾レ  
 汝等ヲ極刑ニ處セシト二人ハ少シモ懼ル、色ナク泰然ト  
 シテ答テ曰ク如何ナル嚴シキ苦難ヲ受クルモ我等ハハリ  
 ストスヲ棄ツル能ハズト時ニ市尹ハアファナシヤト其ノ三  
 女ヲ召致シ彼等ノ前ニキール及ヒイオアソナヲ苦シメ牛筋  
 ヲ以テ鞭撻シ火ヲ以テ其ノ創ヲ燻キ遂ニ生石灰ニ埋メテ

リ市尹ハ斯ク苦ヲ以テ二人ノ致命者ヲ反離セシメハリメ  
 ディアニンノ婦ト三女ヲ勸化スル方術トナサントセシモ其  
 ノ目的一モ達セザリケレバシリアン命シテアファナシヤト  
 三女ヲ苦シメタリ然レド咸ナ主神ヲ念シテ恐怖ス可キ苦  
 難ヲ堪忍シケレバ遂ニシリアンハアファナシヤヲ三女ト偕  
 ニ死刑ニ處シタリシガ皆従容トシテ死ニ就キ欣喜シテ己ノ  
 魂ヲ主ニ復歸セリ  
 我が正教會ニテハ彼等ヲ聖キール及ヒイオアソナト偕ニ  
 月十二日ニ紀念シテ其ノ吊祭ヲ行ヘリ  
 聖致命女等ノ死セシ後市尹又キール及ヒイオアソナヲ論シ

勸ムルモ二人ガ堅忍不拔ナルヲ見、直ニ刎首スルヲ命ジ  
遂ニ聖致命女等ノ刑ヲ受ケシ所ニ刎首セラレタリ。諸「ハリ  
ステイアニン」等ハ墓ヲ同フ。聖清廉者等ヲ葬ム。又前ノ如  
ク聖致命女等ヲ一墓中ニ葬リ而シ、其ノ碑ヲ聖マルクノ聖  
堂中ニ建テタリ。

正教會ニテハ七月九日キール及ビイオアンノ聖軀ヲカノ  
プヨリマヌフィン城ニ遷ス。紀念祭ヲ行ヘリ。

○聖致命者トリフォンノ苦難十三日

聖トリフォンハ第三世代ノ初メフリギヤ州アバメヤ城ノ近  
邑カムプサダニ生レタリ。其ノ父母ハ貧シキ殖民ナレドト

リフォンニ教育スルニ神ノ箴誡ヲ以テセシカバトリフォンノ  
尙ホ幼ナキ時ヨリ主ハ殊恩ヲ垂レテ聖神降リ臨ミ病者ヲ  
痊ス。異能ヲ賜ヘリ。

當時ロマニハ異教ノ徒ナルゴルディアノ位ニ在ルモ一視同  
仁、政ヲ爲シ「ハリスティアニン」ヲ窘逐セザリキ。一ノ皇女アリ  
容貌秀美ニシテ且ツ賢才ノ處女ナリケレバ婚ヲ望ムノ公侯  
多カリシ。然レド不幸ニモ俄ク病ニ染ミ死ニ近ツケリ。蓋ハ  
福音書ニ屢記セシ所ノ如キ惡鬼ガ皇女ニ依リ之ヲ苦シム  
レハナリ。父皇大ニ憂ヒテ種々ノ法ヲ尽シ且ツ著名ナル醫  
士ヲ招キテ療治ヲナスモ少シモ效ナク漸次ニ重クノ苦

痛ノ堪ヘ難キヲ覺フルノミ皇女苦痛ノ中ヨリ自ラ證シテ  
 曰クトリフォント云ヘル者アリ必ズ我ヲ愈サント然レト雖  
 モ其ノトリフォンナル者ヲ知ル者ナキ故皇帝使テ國中ヨ遣  
 ハシテ其ノ人ヲ探求セシニ日ナラズントリフォント稱スル  
 者多ク宮中ニ集マリタリ然レド一人トシ能ク皇女ノ苦痛  
 チ免ガレシムル者ナシ斯クテ帝ノ使者聖トリフォンノ住メ  
 ル邑ニ到リシ時、聖トリフォンハ年甫テ十七ニシ湖濱ニ出テ  
 鷺ヲ畜ヒ居タリシガ使者其ノトリフォント稱スル者ナルヲ  
 知リ彼ヲ携ヘテ羅馬ニ歸レリ  
 斯クテ聖トリフォンハ宮中ニ到リ一目メ皇女ノ惡魔ニ惱ミ

苦シメラル、チ知リ六日ノ間、齋戒沐浴ノ主神ニ惡魔ヲ制  
 スル威力ヲ賜ハンコチ祈リシカバ主ハ其ノ祈禱ヲ納レ惡  
 魔ヲ制スルノ力ヲ玉ヒリトリフォンハ主ハリストスノ聖名  
 ニ依リ惡魔ヲ逐ヒ之ニ問テ曰ク爾、何ノ權ヲ以テ斯ノ處女  
 チ苦シムルヤ「惡鬼曰ク我等神ヲ承認シ且ツ其ノ獨一子ナ  
 ル主ヲ信スル者ヲ制スル權ナシ且ツ我等其ノ人ヲ見ハ怖  
 ギ避ケンノミ然レト主ヲ信セズノ良カラヌ行ヲ爲シ罪惡  
 ニ沈ミ自ラ神、造物主ニ遠ザカリ自ラ好テ我等ノ友トナル  
 者ハ我レ之ヲ制スルノ權アリト遂ニ處女ヲ離レテ去ル處  
 女即チ快癒セリ主ノ名ニヨリテ行ハレシ奇蹟休徵ヲ見テ

滿堂ノ大臣諸公等大ニ驚愕シ己ノ偶像ヲ捨テ眞神ニ轉信スル者多カリキ帝ハ皇女ノ愈ユルヲ見テ大ニ喜悅シ龍顏特ニ美ハシクトリフォンヲ賞ノ珍寶ヲ賜ヒケリトリフォン恩賜ヲ拜シ自ラ一物ヲモ用キズ悉ク貧者ニ頒テ家郷ニ歸リ復、鷲ヲ畜ヒ信心ヲ堅ウシ善行ヲ爲シテ神ニ悅ハレシヲ務メタリ

其ノ後數年ヲ經テデキイ帝登極シ大ニ「ハリスティア」ニシテ窘逐シ地方長官ニ嚴ク命シテ曰ク諸「ハリスティア」ニシテ逮捕シテ正教ニ違背セシメ若シ從ハザレバ之ヲ迫害窘逐ス可シト人アリトリフォンハ「ハリスティア」ニシテ信ヲ其ノ教ヲ脱

キ人ヲ慈惠シテ己ノ教ニ歸依セシメタリト詔ヘシカバ縣令「アクワ」リソ兵士ヲ遣ハシトリフォンヲ捕ヘシメシニ兵士直チニトリフォンヲ逮捕シテニケヤ城ニ送致セリ蓋ハトリフォンハ堅クハリスティア信ヲ捕手ノ手ヲ脱ルヲ謀ラザルノミナラズ自ラ喜悅シテ其ノ手ニ附シタレバナリ縣令ハ屬吏及ヒ兵士ニ包擁セラレ法庭ニ出テトリフォンヲ召シ自ラ生所、姓名、宗教、族籍ヲ問ケレバトリフォン答テ曰ク我ハトリフォント呼ビフリギヤノカムアサダノ産ニ自由ノ民タリ蓋ハ我ハ獨リ主神ニ奉事スルカユヘナリ我ハ唯主神ニ奉事セル故、自由ノ民ニ「ハリスティア」ハ我ノ信仰ナリハ

リストスハ我ノ榮譽ナリ我ノ榮冠ナリト縣令、彼ヲ諭シテ  
 曰ク爾未タ帝ノ詔ヲ知ラザルナラン凡ソ「ハリスティアニソ」  
 ト稱シ諸神ニ祭ヲ獻セザル者ハ苛酷ノ死刑ニ處ス可シト  
 ノ嚴命アリ爾能ク之ヲ思慮シ爾ノ偽リナル宗教ヨリ反離  
 スヘシトトリフォン之ヲ聞キ大聲ニ呼テ曰ク噫主ヨ願クハ爾  
 ノ聖名ノ爲メニ苦難ヲ受ケ致命スルノ榮ヲ賜ヘヨトアソ  
 ワリソ又諭シテ曰ク我レ爾ニ勸ム爾、諸神ニ獻祭セヨ爾年  
 少フシテ利害得失ヲ辨ヘズ且ツ爾ヲ死刑ニ處スルハ我ノ  
 大ニ哀ム所ナリトトリフォン曰ク我レ確ク吾カ宗教ノ眞理ヲ  
 守リ我等ノ救ノ爲メニ身ヲ以テ犠牲トナシ玉ヒソ主ハリ

ントスノ聖名ノ爲メニ自ラ犠牲ト爲リ以テ我が智ノ明カ  
 ナルヲ示サン縣令曰ク爾改メズンバ我レ爾ヲ烈火ニ投セ  
 ントトリフォン泰然ト答テ曰ク爾我ヲ消滅スルノ火ヲ以テ  
 恐嚇セント欲スルカ爾、若シ己ノ偶像邪神ヲ棄テ、眞神ヲ  
 信ゼスンバ我レ爾ヲ恐嚇スルニ永遠限ナキノ火ヲ以テセ  
 ント縣令傍ニ在リシ偶像ヲ指シテ曰ク爾チ彼ヲ伏拜スベ  
 シ是レ在天ノ主「ゼワエス」ナリトトリフォン曰ク彼ヲ伏拜スル者  
 ハ咸ク沈滅セン爾等愚ナル古傳ノ小説ヲ信シ感情ナキ偶  
 像ヲ伏拜シテ天ヲ創造シ地ヲ水上ニ基キシ大氣ヲ以テ之  
 ヲ掩ヒ人ヲ創造シテ萬物ノ主ト爲シ玉ヒシ眞神ヲ識認ス

ルヲチ欲セズ夫レ何レゾ愚カナルヤ天ニ在マセル我等ノ  
 父、主神ハ罪ニ陥リシ人々ヲ憐ミ玉ヒ己ノ獨一子ヲ遣ハセ  
 リ彼レ人ト爲リ難ヲ受ケ十字架ノ上ニ死シ人々ヲ沈倫ノ  
 中ヨリ救ヘリ此ノ神ノ子ノ甘シテ十字架ノ上ニ死セシ者  
 ハ第三日ニ及テ復活シ天ニ昇リ神父ノ右ニ坐セリ彼レ光  
 榮ト權柄トヲ以テ復タ來リ生死者ヲ審判シ人々ノ行爲ニヨ  
 リテ報ヲ爲シ玉ハントス彼ハ諸王ノ王、眞ノ神ナリ吾人、永遠  
 ノ火炎ヨリ脱レント欲セバ彼ヲ伏拜スヘシト時ニ縣令出テ  
 、獵セントシ命ントリフォンテ縛リ馬ニ引カセ巳ノ後ニ從  
 ハシメタリトリフォン山野ヲ驅逐セラレ其ノ苦ミニ堪ヘザ

ルモ主ニ於ケル堅キ望ハトリフォンテ固メケレバダウイドノ詩  
 チ詠シ神ヲ呼テ曰ク願クハ爾、爾ノ言ヲ以テ我が步履ヲ堅  
 ウシ何ノ愆尤モ我ヲ制スルヲ容スナカレ兮(詩篇十九)トリ  
 フオン又至謙ト至愛トヲ以テ己ヲ苦ムル者ノ爲メニ祈禱シ  
 テ曰ク主ヨ願クハ此ノ罪惡ノ爲ニ彼等ヲ罰スルヲ勿レト  
 縣令獵ヨリ歸リ致命者ヲ召シ問テ曰ク爾尙ホ己ノ無智ナ  
 ル心ヲ固執スルヤ或ハ諸神ニ獻祭スルヲ諾スルヤトトリ  
 フオン答テ曰ク爾却テ無智ナリ蓋ハ爾ハ万有ノ造化主ヲ識  
 認メ伏拜スルヲ欲セザルユヘナリ我レハ我ヲ救フノ眞  
 理ニ反離セザルヲ以テ我が才智ノ明ナルヲ示サント縣

命命ノトリフォンヲ獄舎ニ繫キ數日ヲ經テ又トリフォンヲ召  
 シテ曰ク爾、禁獄ト諸ノ苦難ニ因リテ無智ニシテ王命ニ背キ  
 タルヲノ愚ナルヲ悟リシナラン」トリフォン曰ク我カ奉事ス  
 ル所ノ我ノ主神ハ罰ノ中ニ我ヲ鞏固シ吾ヲノ信向ヲ守リ  
 テ反離セザラシメントス故ニ獨リ我カ神ニ伏拜シ爾ノ尊  
 ブ所ノ諸神ヲ尊バズ」トアクワイリン之ヲ聞キ命ノ更ニトリ  
 フオンヲ大ニ苦シメ足ニ釘ヲ打テ驅リテ市街ヲ引廻シタリ  
 然レドトリフォンハ堅キ望ヲ主ニ屬シ諸ノ苦難ヲ受ケ忍ビ  
 刑吏再々ヒトリフォンヲ引キ來レバ縣令其ノ堅忍不拔ナル  
 テ見テ大ニ驚キ謂テ曰ク諸ノ苦難猶ホ爾ヲ屈セシムル能

ハザルカ」ト致命者答テ曰ク爾、未タ我ヲ堅ムルハリストス  
 ノ威力ヲ識認セサルカ爾、猶ホハリストスノ能力ハ遂ニ勝  
 ツ可ラザル者ナルヲ悟ラザリヤ」ト長官之ヲ聞キ更ニ苦  
 痛ヲ増サシメ慘酷ニモトリフォンヲ推ウチ火ヲ以テ其傷ヲ  
 燒カシメタリ然ルニ刑吏ハ忽然、天光アリ煌々トシテ致命  
 者ノ顔ヲ輝シ且ツ榮冠降リテ之ニ被ラシムルヲ見、大ニ驚  
 キ地ニ伏シタリトリフォンハ至上ノ威力ニ堅メラレ大聲ニ  
 呼テ曰ク主ヨ爾ニ感謝ス爾、我ヲ眷顧シテ我ヲ敵ノ手ニ附  
 ケズ尋ノ日ニ我が首ヲ照スコ灼々タル天光ヲ以テシ我ニ  
 救贖ノ避所ヲ賜ヒ爾ノ右手我ヲ受ケントス主ヨ爾ニ祈ル

恒ニ我ト偕ニシテ我ヲ堅メ我ヲ保護シ我が偉績ヲ奏スルガ  
 爲メニ威力ヲ玉ヒ爾ノ聖名ヲ愛スル諸聖人ト偕ニ信義ノ  
 榮冠ヲ受ルニ堪フル者ト爲セヨ」  
 縣令ハトリフォンガ諸ノ艱難窘困ノ中ニ堅忍不拔ナルヲ見  
 ルモ猶ホ之ヲ試ミント殊ニ優旨ヲ以テ重賞尊位ヲ與フルヲ  
 約シ温言ヲ以テ主ニ反離セシメントシタリ然レト皆徒勞  
 ニ歸シケレハ遂ニトリフォンヲ死刑ニ定メタリ斯クテ聖者  
 ヲ處刑セントノ廊外ニ引キ行キシガ未ダ刑卒ノ及テ受ケ  
 ザル先キ祈禱シテ己レノ魂ヲ主神ニ復歸セリ  
 ニケヤ城ニ居ルノ「ハリストスティアコン」等布ヲ以テ其ノ遺体ヲ

卷キ時ノ習慣ニ循ヒ香油ヲ傳テ而シテ城内ニ葬ラント欲セ  
 シガ聖致命者夢ニ顯ハレテカムプサダ城ニ歸葬スルヲ  
 命セシ故「ハリストスティアコン」等謹テ其ノ命ニ從ガヒント云

○聖致命女、ペルベトツア及ヒフエリキタタノ苦難 十三日

第一世代ノ「ハリストス」教會ニ致命セシ人々ノ苦難ヲ報道  
 スルニ當リテ「ペルベトツア」及ヒ「フエリキタタ」共ニ苦難ヲ受  
 ケシ者ノ事ハ教會ニ最モ著シカリキ抑モ「ワイヤベルベトツ  
 ア」ハ時ニ歳僅カニ二十二ノ婦ニシテ「ガルフゲン」ニ生レ富貴  
 ナル紳士ノ女ナリシガ其ノ兄弟及ヒ家人親友數人ト共ニ  
 聖洗ヲ受ルヲ準備センガ會々セアタイムセツエル帝ノ詔ニヨ



リテ忽然最ト慘酷ナル窘逐起リ(史家之ヲ第五ノ窘逐ト稱シ二百二年ニ始マレリ)凡ソ啓蒙ヲ受ケシ者ヲ捕縛シテ法庭ニ召致セシカバワイワイヤペルベトアハ兄弟及ヒ婢フエリキ  
 タタ及ヒ少年ザトルコン、セクンド、レウオカトト共ニ捕縛セラレテ皆法庭ニ送致セラレタリ裁判官彼等ヲ諭シテ祭ヲ諸神ニ献ゼシメントセシニ彼等皆確ク唯一ノ眞神ヲ信認ノ偶像ヲ拜スル能ハズト答ヘタリ  
 斯ク糾問セラル時ペルベトアノ父ハ異教ノ熱信ナル徒ナリシカバ來リテ裁判官ト共ニ諭シ勤メテ女ヲハリストス教ヨリ反離セシメントセリ然レド父ノ勸言モ亦徒勞ニ

歸セシカバ諸々ノ啓蒙者ヲ暫時、假ニ私宅ニ禁固セシカバ彼等ハ聖洗ヲ受クルノ機ヲ得タリペルベトア衆ニ謂テ曰ク我レ聖神ニ啓導セラレ唯一ノ事ヲ祈レリ蓋ハ將ニ受ケントスル苦難ノ中ニ在リテ耐忍ノ力ヲ賜ハンコト主ニ祈ルナリト其ノ後幾クモナクシテ彼等、悉ク獄舎ニ繋ガレシガ固ヨリ狭陋ナル獄舎ナレバ囚者充滿シテ呼吸ダモ爲シ難ク加之ナラズ獄吏殘酷ニシテ彼等ヲ待遇スルコト非道ナレハ其ノ苦難ハ實ニ言語ニ絶エタリ況テヤフエリキタタハ産期已ニ近クペルベトアハ嬰兒ヲ養育スル脆弱ノ婦人ナルニ於テチヤ然レト彼等ハ皆之ヲ耐ヘ忍ビシガ二人ノ輔祭

アリ周旋シテ彼等ヲ親戚ガ訪ヒ慰ムルヲ得ヘキ箱々廣キ  
 獄舎ニ移シタリペルベトッアハ心少シモ憶セズノ苦難ヲ受  
 クルノ日ヲ待チシモ父母ノ悲哀ハ實ニ甚クシクノ堪フル  
 能ハキヲシメ特ニ老衰セル父カハリストス教ヲ捨ルヲ勸  
 シテ止マサルハペルベトッアヲメ斷腸ノ思ヲナサシメタリ  
 老父、女ニ謂テ曰ク我が女ヨ我が老衰ヲ痛ミ我常ニ地上ノ  
 萬物ニ優リテ爾ヲ愛スルヲ念ヒ且ツ罪ナキ己ノ嬰兒ヲ憐  
 レメヨ若シ爾在ラザレハ兒ハ何ヲ以テ生活スルヲ得ヘキ  
 ヤ爾己ノ族ヲ輕視スル勿レ爾若シ獄吏ノ手ニ生命ヲ失ヒ  
 ナバ我等何ノ面目アリテ世人ニ交ハルコトヲ得ンヤト云ヒ

終リ涙ヲ流シ女ノ前ニ跪キ其ノ手ヲ接吻セシガ母ハ唯、默  
 然トメ涕泣スルノミナリ恐ラクハ母モ心ニハリストスラ  
 信スル者ニシテ女ガ父及ヒ嬰兒ノ爲メニ己ノ信仰ヲ棄ル能ハ  
 ザルコトヲ悟リシ故ナランペルベトッア父ノ失望セントスル  
 ヲ見心刺ルガ如ク涕泣シテ父ヲ接吻セシモ敢テハリスト  
 スヨリ反離スルコトヲ諾セズ父ヲ慰メテ曰ク我が父ニ悲哀  
 スル勿レ凡ソ事皆主ノ手ニ在リ我等己レニ因ルニ非ラズ  
 主ノ聖旨ニ因ルナリト斯クペルベトッアハ主ニ依頼シテ疑  
 ハザレハ心ヲ安ズルコトヲ得テ獄中ノ苦難モ拷治モペルベ  
 トッアノ爲ニ喜ハシク見エタリ蓋シペルベトッアハ主ノ爲メ

ニ苦難ヲ受シレバナリ斯クテ主神ハ己ノ仁慈ニヨリ主ノ爲メニ難ヲ受クル者ハ悉ク在天ノ榮冠ヲ賜フヲ約スル休徵ヲ以テ彼ヲ鞏固シタリ或ル日諸々ノ囚者ヲ召致シテ公審ヲ開キシ時皆法庭ニ出デケレバ群衆之ヲ見ントシ集ヒ來レリ普ラクノ法官坐ニ就キ一々詰問ヲ爲セシガ皆聲高カニ主イイススヘリストスヲ承認シテ一人モ反離スル者ナガリケリペルペトアヲ詰問セントスル時彼レノ父其ノ嬰兒ヲ懷ニ抱キ群衆ヲ分ケ入り復タ彼ヲ背離セシメントメ曰ク此ノ嬰兒ヲ如何ニスベキ爾之ヲ憐レヨト法官イラリイモ不幸ナル父ト借ニペルペトアニ勸メテ曰ク老父ノ

晩歳ヲ悲哀ニ具レシメ且ツ無罪ノ嬰兒ヲ棄ルハ豈無情ナラズヤ爾我カ勸メニ從ヒ祭ヲ諸神ニ獻ズ可シトペルペトア曰ク能ハス法官曰ク爾堅ク己ヲハリステアニナリト爲ヌカ曰ク然リ我ハハリステアニナリト此ノ時不幸ナル父ハペルペトアニ勸メテ止マザレハ法官命ヲ老父ヲ退ツカシメシコ一ノ兵士老父ノ隣躋シテ命ニ從ハザルヲ見、強テ之ヲ退カシメケレハペルペトア之ヲ見テ悲歎ニ堪ヘサリケリ官法聲高ラカニ諸々ノハリステアニナリト猛獸ニ食ハシムルノ刑ニ處シ太子ノ誕生日ニ於テ之ヲ行ハント宣告セシニハリステアニ等之ヲ聞キ大ニ喜ヒ從容トシ

テ獄舎ニ還リタリ  
 フェリキタク産時已ニ届リ將ニ子ヲ生マントシテ甚ク苦ミ  
 シニ或人女ニ謂テ曰ク爾、今猶ホ苦シムト是ノ如シ若シ獸  
 窟ニ投ゼラル、時ハ其ノ苦、幾許ツヤ「フェリキタク曰ク我レ  
 今、己ノ爲メニ苦シムモ獸窟ニ投ゼラル、時ハハリストス  
 ノ爲メニ苦ミヲ受クルナレバ主ハ必、我ヲ扶助セントス」ト  
 斯クテ刑ニ處セラレントスルノ前日、午後ニ至テ事ヲ好ム  
 ノ人々刑ニ定マル「ハリステアニン」等ノ勅止如何ンテ見  
 トテ獄舎ニ集リケレハ二人ノ女ハ人々ニ將ニ來ラントス  
 ル怒リテ避ケ異理ニ就カン「トテ勅メ且ツ其ノ心ニ滿ッル

神靈ノ欣喜ト將ニ受ケントスル永生ノ福樂ヲ説キ示シ  
 リシニ年少ナルサトルコント云ヘル者起テ衆ニ云テ曰ク  
 公審判ノ日ニ當リテ我等ヲ見知ランカ爲メニ今我等ノ顔  
 ナ熱視セヨ「ト」ハリステアニン「ヲ刑場ニ引キ行ク時憶スル色  
 ナク欣喜其ノ顔ニ顯ハレペルベト「アハ祝歌ヲ謳ヒサトル  
 ニンハイラリイニ向ヒ侃々トノ神ノ審判ノ「ト」ヲ説キ已ニ  
 刑場ニ到リ先ツ之ヲ鞭撻シ次テ猛獸ヲ放テテ其ノ中ニ入  
 ラシメタリ「ペルベト「ア借ニ難ヲ受ル者ニ謂テ曰ク剛毅忍  
 耐シテ苦難ヲ怖ル、勿レ「ト」時ニ猛獸敢テ「ハリステアニン」  
 テ害セザリケレバ遂ニ異教人等ノ請ヒニ由テ咸ニ斬首セ

ラレタリ

○主ノ迎接及ヒ接神者シメオン及預言女アンナノ

紀念 十四日 十五日

我等ノ主イイススハリストス降誕ノ後四十日ヲ經テ至聖堂  
 女神母マリヤ嬰兒ヲ抱キテイエルサリム城ニ到リ聖殿ニ獻  
 シタリモイセイノ例ニハ凡ソ初生ノ男子ハ稱シテ聖物ト  
 ナシ主ニ獻ズルヲ命ゼリ是レエキペト國ニテ初生ノ人畜  
 カ殺サル、時イズライリ初生ノ男子カ死ヨリ救脱シタル  
 ナ記憶スルガ爲メトリ故ニ凡ソ初生ノ男子ハ皆主ニ屬ス  
 ルナレハ法律ノ定メタル價ヲ以テ之ヲ贖ハザルヲ得ズ

四十日ヲ經テ潔日巳テニ滿レハ嬰兒ノ爲ニ小羊ヲ屠テ  
 主ノ燔祭ニ獻ズルヲ要セシモ若シ家貧シケレバ之ニ代ル  
 ニ雙鳩或ハ二雛鳩ヲ以テセリ至聖神母ハ己ノ生ム所ノ者  
 ハ聖神ニ感シテ降臨セシ神ノ子世ノ救主タルヲ知ルト雖  
 此謹テ此ノ例ニ從ヘリ  
 此ノ時ニ當テイエルサリムニシメオント名ツクル虔敬ナ  
 ル翁アリ常ニメシヤ救世主ヲ信シ待ツ者コノ先ニ聖神ヨ  
 リ主ハリストスヲ見ザレハ死セズト約ヲ受ケタリ主ヲ獻  
 ズル時シメオン聖神ニ感シ聖殿ニ到リ既コソテ神靈ノ  
 嬰兒ヲ見テ之ヲ抱キ主ヲ讚揚シテ曰ク主ヨ如今爾ノ言ヒ

タルガ如ク爾ノ僕ヲ安然トシ世ヲ逝ラシム蓋ハ我レ自ラ  
 爾ノ救ヲ見我カ救主ヲ目撃セシテ以テナリ爾、特ニ萬民ノ  
 前ニ備フル者、異邦ヲ照ラスノ光リ又爾ノ民イズライリノ  
 榮タリトイオシフ及ヒ至聖童女ハ其ノ言ヲ奇トセリシメ  
 オン又祝シテマリヤニ謂テ曰ク此ノ子將コ立ントスイズ  
 ライリ族多人ノ盛衰ニ關ハラシ又駭ヲ受クルノ号シナリ  
 衆ノ心念ヲシ流露セシメ且、爾ノ心モ亦將コ劔アリテ之ヲ  
 刺サントス(路加一二三)當時此ノ言ヲ聞ク者ハ之ヲ解セザ  
 ルモ後ハリストスノ身生ヲ見テ明ニ解スルヲ得タリ  
 ハリストスハ人々ニ新シキ恩寵愛憐ノ法ヲ與ヘタリ然レ

ト其ノ至聖ナル教ハ自ラ神聖ナル師トシ却テ多人ノ譏誚  
 駁論スル所ノ者トハナレシ至聖神母ハ已ノ子ノ諸難ヲ受  
 ケ十字架ニ死スル時ニ於テ實ニシメオンガ言ヒシ如ク劔  
 アリ其ノ心ヲ刺スカ如キノ悲哀ヲ受ケタリ  
 再説又年尙ホ若カリシ時、夫ヲ失ヒヤセ妾トナリテ獨リ主ニ奉  
 事シ殿ヲ離レズ堅ク信シテ救主ノ降臨ヲ待チシフアヌイル  
 ノ女、預言女アンナハシメオント偕ニイイススヲ見、其メッ  
 ヤナルヲ悟リ主ヲ讚揚シ且ツ是ノ事ヲ以テ贖ヲ望メル人  
 々ニ告ゲタリ  
 正教會ニテハ主ノ迎接ノ祭ヲ以テ十二大祭ノ一ト爲シ又

其ノ次日二月十五日ヲ以テ主ヲ接セシシメオン及ヒ預言  
 女アンナヲ記憶セリ  
 此ノ祭日ハ第一世代ニ設立セラレ特ニ嚴重ニ祭典ヲ設ケ  
 シハ第六世代ユステニアアン帝ノ時ニ始マレリ祭日ノ旨意  
 ハ嬰兒ヲ聖殿ニ獻シ主ノ所屬ト爲スヲ是レナリ願ミルニ  
 我等モ亦救主ノ寶血ヲ以テ贖ハレタル者ナレハ既ニ己レ  
 ニ屬スル者ニ非ズ主ノ所屬ナリ故ニ必ズ全力ヲ尽シテ  
 終身主ニ奉事ス可シ我等如何シテ主ニ奉事ス可キヤ曰ク  
 少年ノ時ヨリ必ズ神ノ聖言ヲ學ビ主ノ法ヲ了解スルヲ  
 務ムヘシ又主ニ其ノ恩寵ヲ以テ我等ガ神ノ聖旨ヲ行ヒ成

サソガ爲メニ恩佑ヲ賜ハシテ祈ル可シ凡ソ箴誡ノ大ナ  
 レ者ハ神ヲ愛シ隣ヲ愛スルヲ此ノ二ノ中ニ我等行フ  
 可キノ義務尽ク存セリ

○成徳ナルイシドルベルシオトノ紀念十六日

聖イシドルハ大約第五世代ノ人ニシテエギペト國ニ生レ  
 タリ其ノ家固ヨリ富貴ナレハ善良ナル教育ヲ受ケタリイ  
 シドル弱年ノ時ヨリ閑靜ヲ好ミ世累ヲ捨テ修士トナリ下  
 エキペトノベルシヤ城ニ程近キ曠野ニ至リ修行ノ地トナ  
 シ草根ヲ食ヒ氷ヲ飲ミ弊衣ヲ被ルノミニ常ニ祈禱ヲ爲  
 シ神ヲ思念シ以テ道ヲ修メシカ其ノ徳高ク行嚴正ナルヲ

以テ隱士等ノ望テ屬スル所トナリ修道院ノ長ニ撰擧セラレタリイシドル恒ニ心ヲ尽シテ兄弟ノ靈益ヲ謀リ行ヲ以テ言ヲ以テ人々ニ謙退無慾ニシテ塵世ノ慮リト肉慾トニ克ツヘキヲ教ヘタリ

聖イシドル兄弟ヲ諭シテ曰ク人世塵ヲ脱レ野ニ隱遯スルモ憲ニ任セテ事ヲ行ヒ閑靜ナル野ニアルモ其ノ心繁華ナル市街ニ居ルト同シケレハ果シテ何ノ益アラシヤ又靈魂ハ肉体ノ靜ナルニヨリテ浮世ノ妄想ヲ逞シフセハ其ノ心情モ亦迷眩シ已テニ修メシ勤行モ遂ニ無ニ歸シ神靈ノ勝利モ肉慾ノ爲ニ制セラレ戰ニ臨ムノ壯士モ敗走者トナラ

シト又曰ク修士ハ憤怒、高慢、自愛、ノ心アルベカラズ常ニ清廉ヲ主トシ肉体ノ慮リヲ爲スベカラズ修士ノ口ハ恒ニ神ヲ讚揚シ祈禱ヲ爲シ靈益ノ爲メニ開キ惡言誹謗ノ爲ニ開クベカラズト

聖イシドルノ言ハ獨リ修士隱士ノ爲メニ云フニ非ス彼レノ遺文ヲ見ルニ各人ノ教訓トナル者甚タ多クシテ今猶ホ存スル者二千有余編アリ其ノ内或ハ政府ノ爲メ或ハ主教ノ爲ニ説キタル者アリ

聖イシドル偽教ヲ排斥シ邪說ヲ論破シ正教ノ定理ヲ撰ビ聖書ノ註解ヲ著ハセリ人之ニヨリテ靈益ナル教訓ヲ受ル



ヲ得ヘシ

聖イシドルハ深ク學術文藝ヲ究メシカハリストス教ノ睿  
智ハ高尙ニシテ比スヘキ者ナケレハ心ヲ注キテ聖書ヲ學  
フベキヲ人ニ教ヘタリ

又聖イシドルハ強キヲ挫キ弱キヲ助ケ政府ト法教トノ別  
ナク高位顯官ニ居テ下民ノ儀風ヲ乱シ或ハ權ヲ弄ソビ或  
ハ私慾ヲ逞シフスル者ヲ痛ク責メ且ツ書ヲ皇帝少フェオド  
シイニ上リ之ヲ諫メテ謙讓大度ノ君トナシ其ノ寵臣ヲ勸  
メテ公正ノ人トナラシメタリ  
彼レ又惡弊ヲ破リ各自ノ力ニ應シ謙遜、溫柔ニシテ諸善ヲ起

シ眞理ヲ弘張スヘキヲ以テ「ハリスティアコン」ノ本分ト爲セ  
リ

聖イシドルハ直言諱ムナクシテ人ノ嫌忌スル所トナリシ  
モ堅ク眞理ヲ執リテ聽カズ數無罪ニシテ爵セラル、者ノ爲  
ニ辨護シ又聖金口イオアンノ爲メニアレキサンドリヤノ  
大主教フェオフィルコ抗シ聖者ヲ所置スルコノ不法ナルヲ極  
言セリ且書シテ謂ヘルアリ曰ク誹謗ヲ受ルアルモ恒コ徳  
義ヲ愛シ或ハ榮セラル、コアルトモ不善ヲ避ケンレト  
聖イシドル年老テ後安然トシテ世ヲ逝リシト云

○此ノ日又ストウダイ修道院ノ院長ニヨクイサ紀念セリ

彼レハ前ノ院長フオドルト共ニ斥像者ヨリ多クノ窘逐ヲ  
受ケシ人ナリト云フ

○聖致命女アガファイヤノ苦難十七日

第三世代ノ半ニテ羅馬ノ帝デキイノ時、嚴シク「ハリスティア  
ニ」ヲ窘逐シ國中到ル處「ハリスティアニ」ヲ捕縛シテ刑ニ  
行ヒケレバ其ノ艱苦ハ實ニ言語ニ絶エタリ是ノ艱苦ノ時  
ニ當リテ地中海ノ一孤島ナルシナリヤノ都府「パレルモ城  
ニアガファイヤト呼ベル」ハリスティアニ「アリ富貴ノ家ニ生レオ  
徳、兼テ備リ且ツ世ニ稀ナル美麗ノ少女ナリ最ト富ル父ノ  
遺産ヲ受クレヒ心、素ヨリ浮世ノ富貴ヲ好マズ唯世ノ萬物

ニ優リテ主神ヲ敬愛シ之ニ奉事セリ此ノ時「ハリスティアニ  
」ノ艱難ノ事シナリヤニ聞エケレバアガファイヤ大ニ喜ビ身  
ヲ以テ犠牲トナサント欲シ心ヲ決シテ致命ノ準備ヲ爲シ  
タリアガファイヤノ望ノ如ク長官クワインティアント云ヘル人、時  
日ヲ移サズ兵士ヲ遣ハジテアガファイヤヲ捕ヘントセシカバ  
少女ハ其ノ兵士ノ至ルヲ聞キ己ガ房室ニ入り心静ニ祈禱  
ヲ爲シ自ラ出テ兵士ヲ迎ヘ遂ニ兵士ニ護送セラレ從容ト  
シテガタナ城ニ至リタリ斯クテ長官ハアフロディシヤト云  
ヘル最ト富ミテ五人ノ娘ト飲樂奢侈ノ間ニ空シク日ヲ送  
リシ婦人ニ命シカメテアガファイヤヲ宗教ヨリ反離セシメン

トセシカバアフロデイシヤ其ノ命ニ從ヒ辞ヲ和ケ少女ニ偶  
 像ノ前ニ祭ヲ献ズルヲ勸メ世ノ逸樂ニ陷シ入レントン  
 其ノ美色ナルヲ賞シ高價ノ珍寶ヲ贈リ日夜種々ノ快樂ヲ  
 設ケ歌舞音曲ノ宴ヲ開キ少女ノ志操ヲ破ラシメントシタ  
 リアフロデイシヤガ斯ク手段ヲ擇ブハ殊ニ宜シキヲ得タリ  
 蓋ハ世ノ快樂富貴奢侈ニ沈溺スルハ吾人ヲシテ神ヲ愛ス  
 ル心ヲ冷カニシ且ツ容易ニ吾人カ神ヲ思フノ心ト永生ヲ  
 慕フノ情ヲ忘却セシムルヲ得ベケレハナリ然ルニアガフィ  
 ヤハ快樂ノ宴ニ與カラズ是等ノ誘惑ニ陷入ラズ固ク正教  
 ナ守リ主神ヲ欽慕シ喜テ主ノ名ノ爲ニ致命スルノ日ヲ待

ナタリ數日ノ後アフロデイシヤ、長官ノ語ニ往キ告テ曰ク少  
 女ヲ宗教ヨリ反離セシメンヨリハ筆口巖石ヲ柔ラグルハ  
 却テ易カル可シ吾レ我が女ト偕ニ彼ヲ説キ論シ寶石珍珠  
 ナ與ヘテ其ノ心ヲ翻サントセシモ彼レ皆棄テ、願ヒズ今、  
 他ニ彼ヲ論スノ術ナシト長官ハ少女ノ心ヲ奪フニ苦難モ  
 説諭モ其ノ功ナキヲ知リアガフィヤテ法庭ニ召ビ自ラ出テ  
 、其ノ生所ヲ問ヒケルニアガフィヤ答テ曰ク我が父母ハ貴  
 紳ニシ我が一族ハ皆富貴ノ者ナリ長官曰ク爾、榮華富貴ノ  
 家ニ生レ何ソツ斯ク婢ノ如キ弊衣ヲ着ルヤ少女曰ク我ハ  
 ハリストスノ婢ナリ長官曰ク爾、榮華富貴ノ家ニ生レ何ソ

づ自ラ婢ト稱スルヤ少女曰ク我レハリストスノ婢ナルニ  
 因リ族貴クシテ自由ナリ長官曰我等ノ自由ハ爾ノ云フ所  
 ノハリストスニ奉事セザルガ爲メナリ少女曰ク爾ハ惡魔  
 ノ擄、罪惡ノ奴ニ感情ナキ偶像ヲ禮拜スル者ナリ長官怒  
 テ曰ク爾何ノ故ニ我等ノ諸神ヲ嫌忌キラフスルヤ明カニ我ニ語  
 レ且ツ爾、我等ノ諸神ヲ賤シマバ我レ酷ク爾ヲ苦メント是  
 ニ於テ少女ハ長官ニ異教ノ諸神ノ詐偽妄誕ナルヲ述ベ  
 シカバ長官大ニ怒リ刑吏ニ其面ヲ打ツシメ且ツ恐ル可キ  
 苛酷ノ刑ヲ以テ嚇シケルニアガフヤ色ヲ正シ長官ニ謂テ  
 曰ク我レ何ツ之ヲ懼レンヤ爾我ヲ猛獸ニ食ハシメント欲

スルカ我レ主ノ名ニ依リテ之ヲ御セバ其ノ我ニ馴ル、  
 綿羊ノ如クナラン爾、我ヲ烈火ノ中ニ投ゼントスルカ神  
 使必ズ天露ヲ降シ我ヲシテ清涼ナラシメン爾我ヲ窘迫  
 センカ聖神必ズ我ヲ扶佑シ爾ノ手ヲ免レンメン長官怒  
 リニ堪ヘズ命シテ少女ヲ黑暗狹隘ナル獄舎ニ繋ガシメタ  
 リ  
 次日ニ至リ長官再ビ少女ヲ法庭ニ召ビ論シテハリストス  
 ナ離レシメントセシニ少女曰ク爾反テ爾ノ邪神ヲ捨テ爾  
 ナ造リシ眞神ニ就キ以テ永遠無限ノ苦ミヲ免ガルヲ計ル  
 可シト是ヲ聞キ長官命ヲテ少女ヲ柱ニ繋ギ鞭ヲ以テ其ノ

面ヲ打タシメ且ツ諭シテ曰ク爾、諸神ヲ拜シテ生命ヲ保ツ可シ」少女曰ク我レ苦ヲ受ルヲ喜ブ一猶ホ他人ガ夥多ノ珍寶ニ於ルガ如シ此ノ片時限リアルノ苦難ハ我ニ於テ甚ダ益アリ蓋シ箕ヲ以テ清メラレザル麥ハ倉ニ納レラレザルガ如ク我モ亦苦難ヲ以テ清メラレズンバ天國ニ入ル能ハズ」長官、刑吏ニ命シテ痛苦ヲ増サシメ再ビ獄舍ニ繋ガシメシガ夜ニ至リ主神ハ奇異ノ扶佑ヲ遣ハシ聖使徒ペートル少女ニ顯ハレテ其創ヲ痊ヤシ且ツ異光アリ獄中ヲ輝シテ且ニ及ビタリ衛卒之ヲ見、恐懼戰慄シテ獄舍ノ戸ヲ閉ツルニ追アラズ走り逃レシカバ獄門開キ衛卒ナキモアガフイヤハ

致命ノ榮冠ヲ失フヲ欲セズ且ツ衛卒ガ長官ノ咎ヲ受ケン  
 一ヲ慮リ之ヲ憐察シテ獄ヲ去リ已レテ救フ一ヲ爲サザリ  
 キ

其後五日ヲ過キ長官ハアガフイヤヲ法庭ニ出シケルニ其ノ瘡ノ至ク痊ユルヲ見大ニ驚愕スレ厄神ノ力ヲ認メテ主ヲ信ズル一能ハザル也長官少女ノ苦痛ヲ増サントシテ更ニ燒瓦ヲ敷キ其ノ上ニ坐セシメケレハ倏チ天地震動シテ止マザリケリカタナノ民大ニ恐懼シ長官クワインティアンノ許ニ到リ請テ曰ク願グハ少女ヲ宥免セヨ蓋シ少女ヲ苦シムルガ爲メ天ハ我等ヲ罰セントスレバ也」長官天變地異ヲ恐レ

又人民ノ騒動セシトテ怖レ遂ニ少女ヲ苦ムルヲ止メ又  
 獄舎ニ繋ガシメタリ少女獄ニ返リ跪ギテ天ヲ仰ギ手ヲ舉  
 ゲ聲高ラガニ呼テ曰ク主ヨ爾ニ感謝ス蓋シ爾我ニ世ノ限  
 リアル生命ヲ戀ハシテズノ我ニ耐忍ノ力ヲ玉ヒ我ヲ能ク  
 爾ノ聖名ノ爲ニ痛苦ヲ受ルニ堪フル者ト爲セバナリ今又  
 爾ニ祈ル我ヲ爾ノ聖前ニ召サントナト言畢リ安然トシテ  
 魂ヲ主神ニ復歸セシカバカタナノ民ハ禮ヲ備ヘテ聖致命  
 女ノ遺骨ヲ埋葬セリ  
 其ノ後長官クワインティアンハバレルモ城ニ至リ聖致命女ノ  
 財産ヲ沒収セントシテ發足セシガ川ヲ渡ル時馬逸シテ水

中ニ落チ入り遂ニ溺死セシカバ其ノ後任者ハ神ハ無殘ナ  
 ル窘逐者ヲ罰スルノ嚴ナルヲ見テ聖致命女ノ遺族ヲバ置  
 テ問ハザリケリ

此ニ於テ聖アガファイヤノ榮名四方ニ聞エ埋葬ノ後幾ハクナ  
 ラズノ其ノ墓上ニ聖堂ヲ造營セリ又埋葬ノ時其ノ苦難ヲ  
 記憶センガ爲メ少女ガ苦難ヲ受ケシ時着用シテ血塊ノ染  
 ミタル弊衣ヲ以テ其ノ棺ヲ掩ヒタリ

此ノ城ハ有名ナル噴火山エトナチ去ルト遠カラス一日エ  
 トナ山忽チ噴出シ火石熱泥ヲ四方ニ降ラシカタナ城モ殆  
 ノト埋メラレントセシカバ住民大ニ怖レ神ニ祈禱シツ、

聖致命女ノ衣ヲ捧シテエトナ山ニ向ヒ遂ニ其ノ難ヲ避ク  
 ルヲ得ケレバ住民等雀躍シテ聖女ノ洪恩ヲ感謝セリ是  
 ノ奇蹟アリシハ實ニ聖アガフィヤガ一周年ノ日ナリト云  
 噫昔時ノ「ハリステイア<sup>ヒヤクサ</sup>」等百拙不撓<sup>フ</sup>ノ精神ヲ以テ主神ノ  
 聖誠ヲ守リ能ク艱難ニ堪フルハ獨リ男子ノミナラズ脆弱  
 ノ婦女幼童ニ至ル迄主神ニ依頼シテハリステスノ正教ニ  
 違背セズ喜ンテ恐怖ス可キ困難ヲ耐忍シ能ク身ヲ以テ犧  
 牲ニ供ヘ而シテ遂ニ死ヲ致スハ吾等驚歎ニ堪ヘザルナリ今ヤ  
 我等ハハリステスノ聖名ノ爲ニ苦痛ヲ受ケ死ヲ受ルノ困  
 難ナキモ世ノ名利榮達ニ眩惑シ易ウシ主神ヲ忘ル、ニ至

ルヲハ間髪ヲ入レズ我等豈猛省セザル可ケンヤ願フニ我  
 等古聖ノ如ク百拙不撓ノ精神ヲ養フヲ務ムルカ、主ハリ  
 ステスヲ愛シ其ノ誠命ヲ恪守ル古聖ノ如クナルカ、且ツ浮  
 世ノ富貴、榮達、名譽等ノ諸慾ヲ慕フハ主神ヲ慕フニ優リ偶  
 像ノ爲メニ屢々我等ノ救主ナル造物主ヲ忘レザルカ、邪神  
 ニ己レノ行爲ヲ献セザルカヲ思ヘバ我等實ニ古聖人ニ耻  
 ツベキ也然レモ我等モ亦主ノ造物ナリ故ニ全能ノ主ニ恩  
 佑ヲ玉ヒテ我等ヲ固メ世ノ諸ノ誘惑ニ陥入ラザランヲ  
 請ヒ願ヒ我等ノ救ノ爲ニ難ヲ受ケテ死シ玉ヒシ主ノ忠信  
 ナル僕婢トナランヲ務ム可シ願シハ聖女ノ祈禱ニヨリ

テ我等ノ望ノ達センコトヲ「アミン」

○聖致命女ドロフエヤノ苦難十八日

第三世代ノ頃、嚴シク「ハリスティアコン」ヲ搜索スル時ケサリ  
 ヤ城ニドロフエヤト云ヘル「ハリスティアコン」ノ處女アリ博識  
 英才且ツ容色麗シケレバ知ル者皆嘆美セザルハナシ然レ  
 ド處女ノ特ニ著ルシキハ「ハリスティアコン」ノ諸徳ト神ノ誠  
 ニ熱心ナルナリ彼レ長ノ嫁スルコトヲ好マズ己レヲ全ク主  
 ニ獻シ徳義ノ行ヲ爲シテ神ニ好ミセラレシコトヲ努力セリ  
 カッパドキヤ郡ノ長官カブリキイナル者ドロフエヤガ「ハリス  
 ティアニン」ナルヲ知リ法庭ニ召致セシカバ少女ハ神ニ祈リ

全力ノ助ヲ請ヒ怖ル、色ナク從容トシテ長官ノ前ニ出テ  
 タリ長官ハ王命ヲ傳ヒテ諸神ニ獻祭スルヲ勸メケレバ少  
 女ハ在天ノ主神ハ唯、獨リ主神ヲノミ服拜スルコトヲ命セシ  
 故我レ之ヲ恪守シ其ノ他偶像ハ拜スルコト足ラズト答ヘタリ  
 長官是ヲ聞キ爾、若シ己ノ信仰ヲ捨テズンバ嚴シキ苦難ニ  
 處セント恐嚇セリ然レドロフエヤ曰ク世ノ苦難ハ限リアレ  
 地獄ノ苦ミハ永遠尽ルコトナシ我レ若シ限リアル苦難ヲ  
 怖レナバ焉クテ永遠ノ苦ヨリ脱ルヲ得ンヤ吾レ我ガ主ノ  
 身ヲ殺シテ魂ヲ殺ス能ハサル者ハ之ヲ懼ル、勿レ寧ロ、能  
 ク身ト魂トヲ地獄ニ壞ル者ヲ懼ン、ヨト云ヒ玉フテ記憶シ



テ忘レトズト（馬太十章二十八節）長官命シテドロフエヤヲ刑場ニ引カ  
 シメ以爲（オモヒ）ラク彼レ必ズ苦難ヲ懼レ我が命ニ從ヒ其ノ信仰  
 ナ弄却スルナラント然ルニ豈圖ラシヤ處女少シモ恐怖ス  
 ル色ナク泰然トシテ曰ク何ゾ猶預シテ我ヲ苦シムルヲ  
 命セザルヤ願クハ速ニ我ヲノ艱難苦楚ヲ願ヒズノ身ヲ以  
 テ犧牲ニ供ヘタル主ニ謁（オツ）スルヲ得セシメヨ長官曰ク主ト  
 ハ是レ何人ゾ曰ク神ノ子ハリストスナリ曰ク此ノハリス  
 トスハ何處ニ居ルヤドロフエヤ容ヲ正フシテ曰ク神性ヲ以  
 テ言ヘハ主ハ天地間處トシテ在ラザルハナシ人性ヲ以テ論  
 セハ在天聖父ノ右ニ坐シ父及ビ聖神ト與ニ唯一ノ神ナリ

主ハ我等ヲ招キテ諸聖人ノ魂ガハハトスヲ樂シキ永遠  
 ノ安樂ナル天堂ノ春夏秋冬ノ分ナク百花盛ニ開キ果實  
 多ク熟セル園ニ入ラシムサブリキイヨ爾モ亦我が言ヲ聽  
 キ沈淪（カサレ）ヲ免レ天堂ニ入ル可シト  
 斯クテサブリキイハ聖女ノ言ヲ聽クモ心頑ニテ猶解ケズ  
 復タ諸神ニ獻祭シ良夫ニ嫁ギテ生命ヲ全クセシコトヲ勸メ  
 ケレバ處女決然答テ曰ク我ハ諸神ニ祭ヲ獻セズ蓋ハ我ハ  
 「ハリスティアニシ」ナレハナリ我ハ人ニ嫁カズ蓋ハ我ハハリ  
 トスノ新婦ナレハナリ我が信仰ハ我ヲ導イテ天堂ノ新  
 郎ノ大宅ニ到ラシト此ニ於テ長官ハ諭言ノ無益ナルヲ見、

刑吏ヲシテ處女ヲ酷ク苦シメタリ  
 此ノ後、長官ハ種々思慮ヲ焦シドロフエヤヲ傾ケ其ノ信仰ヲ  
 棄テシメシガ爲メ一ノ手段ヲ案ジタリケサリヤニハリス  
 テイナ、ガルリス、スタト名クル二人ノ姉妹アリ二人先ニ「ハリス  
 テイアニシ」ナルモ苦難ヲ懼レ信仰ヲ弄卻シ正教ニ反離セシ  
 ヌヘ異教人ヨリ夥多ノ金銀ヲ得、豊ニシテ奢侈逸樂ニ世ヲ送  
 ル者ナリサ「アプリキイ」ハ二女ノ例ヲ以テドロフエヤヲ試ミン  
 ト欲シドロフエヤヲ二女ノ處ニ遣ハシ若シ處女ヲ傾ケ反カ  
 セシメナハ重賞ヲ與ヘント二女ニ約シタリドロフエヤ二人  
 ト與ニ居ルハ數日間ナリシガ二人ハ口ヲ極メテ或ハ世ノ

歡樂ヲ話シ或ハ最ト苦シキ死ノ形象ヲ談シ已レシ例ニ倣  
 ハン「トテ勸メ諭シテ曰ク爾此ノ喜ブヘキ生命ヲ以テ苦難  
 ニ亡ボサズ我等ノ勸メニ從テ非命ノ死ヲ避ケヨ」トドロフエ  
 ヤ曰ク爾等我が勸メヲ聽キ聖教ニ反離セシテ悔改シテ復  
 タ「ハリス」トスニ就ク可シ我等ノ主ハ限りナキ仁慈ト極リ  
 ナキ愛憐アレバ誠ニ悔ヒ改メテ主ニ就ク者ヲ容サン」ト姉  
 妹相與ニ答テ曰ク我等、今、何ツ「ハリス」トスノ「トテ」思念スル  
 ヲ得ンヤ我等「ハリス」トスニ反離セシ後、全ク其ノ望ヲ失ナ  
 ヘリ今、若シ反正スルモ恐クハ能ハザラン」ドロフエヤ曰ク爾  
 等、偶像ヲ拜シ罪ヲ行フ「ト」甚タ重キモ主ノ仁慈ヲ疑ヒ望ヲ

失ハ其ノ罪最モ大ナリ主ハ爾等ノ疾ヲ癒サントシテ欲シ  
 且ツ之ヲ能ヒリ故ニ主ヲ稱シテ贖ノ主トナスハ我等ヲ罪  
 惡ヨリ贖フガ爲メナリ又主ヲ稱シテ救ノ主トナスハ我等  
 ヲ救ヒ我等ノ魂ノ病ヲ醫スガ爲メナリ爾等、全心全意ヲ尽  
 シテ主ニ就キ其ノ仁慈ヲ疑フコ勿レト姉妹此ノ言ヲ聽キ  
 偕ニ號泣シテドロフエヤノ足下ニ俯伏シ其ノ祈禱ヲ以テ己  
 レヲ助ケンコトヲ請ヘリ、視ル可シ彼等ガ富貴安樂ノ中ニ在  
 ルモ至上ノ幸福、靈魂ノ安穩ハ少シモアルナキヲ、唯、堅ク主  
 ヲ呼ブハ二人ノ益ナリ今姉妹ハハリストスヲ此ノ世ノ幸  
 福ニ代ヘシ後望メ主ニ屬セザルノミナラズ主ヲ思念スル

コトモ能ハシガドロフエヤノ一言ハ大ニ彼等ノ良心ヲ  
 感動セシメ其ノ魂ニ熱切ナリ望ヲ起サシメ遂ニ姉妹ヲシ  
 テ祈禱ヲ爲サシメタリドロフエヤモ亦跪キ主ニ二人ノ痛悔  
 ヲ容レンコトヲ祈リテ曰ク仁慈ナル主神ヨ爾、罪人ノ死スル  
 コトヲ欲セズシテ其ノ悔ヒ改メシコトヲ望メリ爾等テ謂ヘリ  
 一罪人能ク悔ヒ改ムルコトアレバ天ニ在ル天軍ハ之ヲ悦ヘ  
 リト今願クハ爾ノ仁慈ヲ此ノ迷ヘル羊ニ顯ハシテ善牧者  
 ノ如ク更ニ二人ヲ已レノ欄内ニ入レヨト姉妹モ流涕シ心  
 仲テ熱心ニ祈禱セシカバ主神ハ二人ノ祈禱ヲ聽シテ已レ  
 ノ痛悔セシヲ行ニ顯ハサントスルノ力ヲ玉ヒクリ

數日ヲ經テサブリキイハドロフエヤト二人ノ姉妹ヲ召シ特  
 ニハリステイナ、カルリストタノ二姉妹ヲ已レノ傍ニ招キドロ  
 フエヤヲ反離セシメシヤ否ヲ問ヘリ姉妹答テ曰ク吾等曾テ  
 苦難ヲ怖レハリストスニ反離シテ自ラ迷ヒ自ラ罪ヲ犯  
 セリ然レド主ハ我等ニ痛悔ヲ與ヘシユ〜我等ハ主ニ我等  
 ノ重罪ヲ宥サンコトヲ祈レリトサブリキイ大ニ憤怒シ姉妹  
 テ共ニ縛リ烈火ノ中ニ投シテ燒殺スルヲ命ゼリ二人堅ク  
 忍テ能ク諸難ヲ受ケ主ヲ籲テ曰ク主イイススハリストス  
 ヨ我等ノ痛悔ヲ聽キ納レ我等ニ罪ノ宥免ヲ賜ヘヨトドロ  
 フエヤ之ヲ見欣然トシ天ニ在テ將サニ二人ニ賜ハシトスル

恩賞ヲ二人ニ告ゲ之ヲ獎勵セリ斯ク姉妹ハ世ヲ逝リテ致  
 命ノ榮冠ヲ戴キタリハリステイナ及ピカルリストタガ死スル  
 後サブリキイ大ニドロフエヤヲ苦シメシガ怖ル可キ苦シミ  
 ノ中ニ在リテ致命女ノ顔ハ言フベカラザル光輝ヲ放チテ  
 リ猛惡ナルサブリキイ、ドロフエヤニ謂テ曰ク爾何ヲカ喜ブ  
 ヤトドロフエヤ答テ曰ク吾ガ一世ノ中、今日ニ勝ル喜コビノ日  
 ナシ蓋ハ主ハ我ヲ助ケテ爾ガ魔ノ助ヲ借リテ主ヨリ奪ヒ  
 シ二人ノ魂ヲ更ニ主ニ歸セハナリ今、天ニ於テ大ニ彼等ノ  
 事ヲ喜ベリ神使、天軍、使徒、預言者、聖致命者等亦喜ニ堪ヘザ  
 ルナリサブリキイヨ何ゾ猶豫スルヤ速ニ我ヲノ我が地ニ

於テ涕泣セシ所ノ者ト與ニ天ニ歸ルヲ得セシメヨト  
 サアリキイ之ヲ聞テ益々怒リ苦ヲ増シ火ヲ以テドロフエヤ  
 ナ燒キ其ノ面ニ鞭ムチヲドモドロフエヤ從容欣喜シテ尽ク之ヲ  
 受ケ忍ビシカバ長官ハ其ノ望ヲ失ヒ遂ニ死刑ニ處セリド  
 ロフエヤ長官ノ宣告ヲ聞キ大ニ喜ビ呼テ曰ク主ヨ爾ニ感謝  
 ス爾、我ヲ爾ノ天國ニ導キ爾ノ光明ナル大宅ニ入ルレハナ  
 リト遂ニ刎首セラレタリ  
 傳ヘ云フ聖女ガ刑場ニ引カル時異教ノ學士フエオフィルト  
 云ヘル者ドロフエヤノ信仰ヲ見テ無智ト爲シ或ハ謗リ或ハ  
 笑ヒ背後ヨリ咥テ曰クハリストスノ新婦ヨ我が首ヲ聞ク

望ラクハ爾ガ新郎ノ天國ヨリ我ニ花實ヲ贈ラントト處  
 女聞キ敢ヘス單言ニ答テ曰ク必ズ爾ニ贈ラント刑場ニ至  
 リシ時、刎首者ニ請ヒ暫ラク祈禱シ終レハ神ノ使者、光明ナ  
 ル幼童ノ象ニ顯ハレ手ニ花實ヲ携ヘ來レリ聖女曰ク之ヲ  
 フエオフィルノ所ニ持テ行ケト言終リ頭ヲ垂レ身ハ白刃ノ下  
 ニ消ルモ清キ魂ハ熱愛セル主ノ所ニ飛昇シ永キ幸福ヲ受  
 ケニケリ  
 此ノ日フエオフィルハ朋友知己ヲ集メ微笑シテ己ノ戯言ヲ語  
 リテ曰ク我レ今日ハリストスノ新婦ト自ヲ稱シテ其ノ天  
 國ニ至ルヲ信ズルドロフエヤガ死ニ判決セラレ刑場ニ引カ

ル、時、我之ニハリストスノ新婦ヨ望ムラグハ爾ガ新郎ノ  
 天國ヨリ我ニ花實ヲ贈ラント云ヒシニ彼レ我ニ必ス  
 贈ラント答ヘリト聞ク者咸ナ大ニ笑ヒシガ時ニ光明ナル  
 幼童、手ニ花實ヲ携ヘフェオフィルニ與ヘテ曰クドロフェヤ爾ノ  
 約ニ從ヒ新郎ノ天國ヨリ之ヲ爾ニ遣セリト言終リ忽然去  
 リケレハ花實フェオフィルノ手ニアリフェオフィル茫然トシ爲ス  
 所ヲ知ラズ暫ク呼テ曰クハリストスハ眞實ノ神ナリト  
 朋友知己之ヲ聞テ曰クフェオフィルヨ爾狂セシカト然ルコフェ  
 オフィルハ此ノ嚴寒、全カッパドキヤ雪ニ掩ハレ野ニ青艸ナシ  
 其ノ花實ヲ獲ル能ハザル理ヲ説キ而シテ花實ヲ知己朋友ニ

示シテ曰クハリストスヲ信シ其ノ名ノ爲ニ難ク受クル者  
 ハ幸福ナリ蓋ハ主ハ眞實ノ神ニシテ主ヲ信ズル者ハ誠ニ  
 明智ナリト知己朋友大ニ驚キテ其ノ言ヲ傾聴シタリ而シテ  
 フェオフィルガ眞實ノ神ヲ讚揚シテ止マザルヲ見、遂ニ之ヲ官  
 ニ訴ヘシニ長官ハフェオフィルヲ召致シ其ノ心意ヲ問ヒシニ  
 フェオフィル侃々トシテイススハリストスヲ承認セリ  
 長官曰ク爾、博識雄才ノ人ニ忽チ心ヲ變ヘ今日マテ誹謗  
 セシ所ノ者ノ名ヲ讚揚スルハ實ニ奇可シトフェオフィル答テ  
 曰ク我ヲ忽チ迷夢ヲ醒シ正道ヲ知ラシムルノ主ハ是レ  
 眞實ノ神タルヲ知ル可シト長官種々力ヲ尽シ彼ヲ傾ケン

トスルモフェオフィル堅心主ヲ承認シテ曰ク我レ今ニ至ル迄  
 ナ感ヒシユヘハリストスノ名ヲ誹謗シタルガ今ヤ先ニ犯  
 セシ罪ヲ悔ヒ至心誠意神ノ子ニシテ死セザルハリストス  
 ナ信シ其ノ眞實ニシテ聖ナル名ヲ承認ス」ト長官曰ク爾却  
 ナ苦死ヲ受ルニ非ズヤ」曰ク否ナ我レ幸福ナル生命ヲ得ン  
 一ヲ欲ス」長官曰ク死ノ先キニ我レ爾ヲ酷ク苦シメン」曰ク  
 我ハ主ハリストスノ爲メニ死スル一ヲ欲ス」ト長官曰ク爾  
 自ラ妻子ヲ慮カレ自ラ好テ極刑ニ就クハ無智ノ至リナラ  
 ズヤ」フェオフィル曰ク我レ世ノ苦難ヲ懼レズソ永生ヲ尋ヌ豈  
 ニ無智ナランヤ誠ニ大智ナリ」ト長官曰ク爾ハ實ニ苦難ヲ

愛スル一平安ニ勝リ死ヲ好ム一生命ヨリ甚シキ者也」トフェ  
 オフィル曰ク苦ミト死トハ固ヨリ我が懼ル、所ナリ蓋ハ其  
 ノ苦シミハ永遠限リナク其ノ死ハ永罰之ト偕ニスレハ也」  
 ト長官ハ諭言ノ益ナキヲ知リフェオフィルヲ木ニ縛リ酷ク之  
 ナ鞭タシメシカバ致命者ハ主ノ爲メニ苦難ヲ受クルヲ喜  
 ビ神ニ感謝セリ長官苦難ヲ増サシメ鉄鈎ヲ以テ其ノ体ヲ  
 搔キ烈火ヲ以テ其ノ瘡ヲ蒸シタリシガ苦難ノ中ニ在リテ  
 欣喜ノ色、其ノ顔ニ顯ハレ増々ハリストスヲ識認セリ斯ク  
 テ遂ニ死刑ニ處シケレバフェオフィル從容トシ曰ク我が神、爾  
 ハリストスニ感謝ス」ト頭ヲ垂レ刎首セラレタリ

○此日、又、神學者イオアソニ手撫セラレスミルナノ主教ニ  
舉ラレシ聖ワツコルヲ紀念セリ

○ラムプサクノ主教、成徳ナルバルフェニイノ紀念

十九日

成徳ナルバルフェニイハメリトボリニ生レシ人ナリ幼少ノ  
時、教育ヲ受ケシヲナキモ熱心、聖堂ニ祈禱シ謹テ其ノ讀ム  
所ノ聖書ヲ聽キ至心至意ヲ尽シテ主ヲ愛シカメテ其ノ誠  
ヲ行ヒ且ツ求ムル所アル者ニ助ケタリ彼レハ固ヨリ貧シ  
ケレハ程近キ湖水ニ至リテ魚ヲ漁リ其ノ價ヲ得テ貧者ヲ  
助ケリ主ハ少年バルフェニイニ恩佑ヲ與ヘ主ノ名ヲ呼ビ病

者ヲ癒スノ異能ヲ玉ヒシガメリトボリノ主教、斯ノ事ヲ聞  
キバルフェニイヲ召ビ教育シテ後、擧テ司祭トナシタリ  
聖バルフェニイハ増々熱心ニ主ニ奉事シ異能ヲ施シテ人々  
ヲ助ケ遂ニラムプサク城ノ主教ニ撰バレ能ク教會ヲ治理  
シ夥多ノ奇蹟ヲ行ヒシト云フ

○此日又エラダノ成徳ナルルカヲ紀念セリルカハ農家  
ニ生レ少キ時ヨリ貧者ヲ助クルガ爲メニ己レヲ節シ衣食  
ヲ分テ貧者ニ衣食セシユヘ父母ノ怒リニ遇フテ數回ナ  
リ斯クテ全ク己レヲ神ニ獻ゼント欲シ修士トナリ祈禱、勤  
勞ノ間ニ日ヲ送リシガ主ハルカニ奇蹟ヲ行フノ異能ヲ賜



ヘリト云フ

○聖大致命者フエオドルストラティラトノ苦難二十日

第四世代ノ初ノ頃コンスタンティン及ビリキニイ帝ノ時エ  
 フハイト城ニフエオドルト云ヘル人アリ智、仁、勇ノ三徳ヲ兼  
 チシカバ其ノ名ハ國中ニ藉々<sup>ヒキ</sup>タリキ此ノ時、大蛇アリ屢々  
 城外ニ出テ害ヲ爲シケレバ人々皆怖レ<sup>チ</sup>慄ノギ敢テ大蛇ノ  
 棲ミシ處ニ近ヅク者ナガリキ然ルコフエオドルハ年少ナレ  
 但「ハリスティアニン」ナレバ神ノ聖名ヲ呼ビ甲冑コテ身ヲ堅  
 メ劍ヲ拔テ大蛇ヲ殺セリ夫レヨリシテ其ノ英名、彌々高ク  
 遂ニ黒海ニ程近キイラクリヤ城ノ將軍ノ顯職ニ擧ゲラレ

スラフイラト

タリ是ニ於テフエオドルハ能ク己レノ配下ヲ治メケレバ人  
 々ハフエオドルノ善良、恭謙、公義ナルヲ見テ其ノ常ニ崇事セ  
 シ所ノ主ヲ讚メ揚ゲハリストス教ヲ受ル者甚ク多カリキ  
 東帝リキニイ位ニ即キシ初年コンスタンティン帝ト偕ニ數  
 條ノ詔ヲ下シ「ハリスティアニン」ノ爲ニ謀リシモ心竊ニ「ハリ  
 スティアニン」ヲ嫌忌シケレハ後、大ニ窘逐ヲ起シ「ハリスティア  
 ニン」ヲ追捕セリ斯クテリキニイ帝ハフエオドルガ多クノ人  
 々ヲハリストス教ニ轉セシメシヲ開キ使者ヲ遣ハシテフエ  
 オドルヲニコミデヤニ召致セントセリ  
 リキニヤ帝怒リテ隠シ使者ヲ遣ハシテ懇切ニフエオドルニ

面スルヲ命シケレバ使者イラクリヤ城ニ到リフエドルヲ見テ曰ク爾ニコミテヤニ到リ帝ニ謁ス可シ帝ハ甚ク爾ヲ愛セリ蓋シ屢々爾ノ智勇ナルヲ聞キ爾ヲ見テ爾ノ功ヲ表シ賞ヲ與ント欲スレバナリトフエドルハ使者ノ言ヲ聞キ忽チ帝ノ具意ヲ悟リ正教ノ爲ニ死ヲ致ス<sub>一</sub>テ怖レザルモ己レノ堅キ規例ヲ示シ新信者ヲ堅メンガ爲メ任所イラクリヤ城ニ在リテ致命セン<sub>一</sub>テ望ミ直ニ書ヲ帝ニ奉リ帝ノ自ライラクリヤ城ニ到ラン<sub>一</sub>テ請ヒタリリキニイ帝ハ其ノ請ヲ許シ官吏兵士ヲ從ヒ儀仗ヲ盛ニシ金銀ノ偶像ヲ携ヘテイラクリヤニ赴キタリ斯クテ帝ガ城ニ入ラントスル前

夜フエドルハ主ヨリ夢ニ預シ偉績ヲ立ルノ時既ニ近ツクヲ示サレ又祈禱ノ時忽然、天光アリテ其ノ顔ヲ照ラシ且ツ聲アリ謂フテ聞クニ曰クフエドルヨ爾堅ク守レヨ我レ爾ト借コス<sub>一</sub>トフエドルハ既ニハリストスノ聖名ノ爲メニ難チ受ク可ギノ時近ツキタルヲ悟リ限リナク欣コビタリ時ニ帝ハ城ニ近ツキケレバフエドルハ之ヲ知リ己レノ室ニ入り跪キテ熱切ニ神ニ祈リテ曰ク爾ノ聖名ヲ籲フ者ヲ助ケテ捨テザル主、眞ノ神ヨ我ニ爾ノ仁慈ヲ顯ハシテ我ヲ我が敵ノ誘ヒニ守リ我ヲ堅メテ爾ノ聖名ノ爲メ固ク立ツノ力ヲ賜ヘヨ若シ我レ我等ノ救ノ爲メニ死シ玉ヒシ主ノ爲

ニ生命ヲ捨ツベクンバ死セシノミ<sup>レ</sup>祈禱シ終リテフェオド  
 ルハ心靜ニ正服ヲ着<sup>キ</sup>肥馬<sup>フトリタルウイ</sup>ニ跨リ城人及ヒ兵士ヲ從ヒ出テ  
 謹テ帝ヲ迎ヘケレバリキコイ帝モ亦己レノ怒ヲ隱シ懇切  
 ニフェオドルヲ遇シ音樂ヲ奏シテ最ト<sup>ラジツ</sup>殿カニ城内ニ入リタ  
 リ次日ニ至リ儀仗ヲ盛<sup>コ</sup>シ城中ノ<sup>ヒロク</sup>達ニ設ケタル玉座ニ就  
 キフェオドルニ向ヒ其ノ智勇ニメ能ク配下ヲ治ムルヲ賞シ  
 又其ノ容貌ノ勇ニシテ美ナルヲ稱嘆シ次テ群衆ノ前ニ諸  
 神ヲ獻祭スル<sup>コ</sup>ヲ命シタリフェオドルハ獻祭ノ日ヲ二日ノ  
 後ニ延シ期日マテ偶像ヲ己レノ家ニ齋<sup>モ</sup>ヲ歸ランコト帝ニ  
 請ヒケレバリキコイ帝之ヲ許シ金銀ノ神像ヲ將軍ノ家ニ

遣ハシタリ夜ニ至リフェオドルハ偶像ヲ寸斷ノ之ヲ貧者ニ  
 與ヘタルモ帝之ヲ知ラズ二日ノ後、衆民ヲ達ニ集メフェオド  
 ルヲ召シ謂テ曰ク明智ナルフェオドル我が愛將ヨ今、將サニ  
 諸神ニ祭典ヲ行ヒ供物ヲ備フベキノ期<sup>トキ</sup>至レリ爾祭ヲ獻シ  
 爾ノ敬虔ヲ顯ハシテ全民ガ益々熱切ニ諸神ニ崇事スルヲ  
 致セヨトフェオドル未タ答ヘザルニ一兵士アリ進ミテ帝ニ  
 奏シテ曰ク帝ヨ將軍ハ爾ヲ詐ケリ吾レ昨日、一貧人ガ手ニ  
 諸神ノ一ナル金首ヲ持テ見<sup>イナガ</sup>訝リテ之ニ問ヒシニフェオ  
 ドルヨリ得タリト答ヘリ帝是ヲ聞キ茫然爲ス所ヲ知ラズ  
 默スル<sup>ヤ</sup>稍久シフェオドル答テ曰ク兵士ノ謂ヘル<sup>コ</sup>誠ニ然

リ我レ實ニ爾ノ諸神ヲ破毀シ且ツ宜キヲ爲セリ帝ヨ彼ノ  
 像ハ自ラ滅亡ヲ脱スル能ハズ如何ゾ爾ヲ助クルヲ能ク  
 センヤ」トリキニイ大ニ怒リ一言モ出ス能ハザリシガ暫ク  
 アリテフエオドルヲ嚴責スルモ自若トシテ曰ク帝ヨ何ノ故  
 ニ震怒スルノ甚シキヤ我爾ニ爾ノ諸神ノ偽物ナルヲ證  
 セリ若シ彼ノ像ハ眞ノ神タラバ我之ヲ毀チシ時何ツ天ヨ  
 リ火ヲ降シテ我ヲ亡サハルヤ我爾ノ嚇怒ヲ恐レズ却テ爾  
 ガ偶像ノ滅亡セルヲ喜ブナリ爾ハ詐偽ノ諸神ヲ拜スルモ  
 我ハ永久ノ活神ヲ拜シテ唯、獨リ之ヲ讚美セリ」トリキニイ  
 帝命メ痛ク牛筋ヲ以テ鞭撻セシメ其ノ苦ムヲ見、罵リテ曰

ジフエオドルヨ爾ノ神ハ爾ヲ救ヒシヤ如何」トフエオドル從容  
 トシテ曰ク帝ノ意ニ任セテ行ヘヨ吾レ悲哀、窘逐、苦難ヲ受  
 ゲテ死ニ至ルモ爾、我ヲハリストスヲ愛スルノ愛ヨリ割ク  
 能ハス」リキニイハ主神が見ヘザル中ヨリ全能ノ力ヲ以テ  
 受難者ヲ助クルヲ悟ル能ハズシテ實ニフエオトルヲ助ク  
 ルノ全能ノ神ヲ罵リシナリ夫レ若シ神ガ恩佑ヲ以テ吾人  
 ノ柔弱ノ肉体ニ堅忍不拔ノ力ヲ賜フニ非ラスンハ焉ソゾ  
 從容トシテ斯、ル苦難ヲ耐忍スルヲ得ンヤ  
 斯クテリキニイ帝怒リニ堪ヘズ益々痛ク將軍ヲ苦シムル  
 ナ命シ或ハ火ヲ以テ之ヲ薰シ或ハ牛筋ヲ以テ之ヲ打テ或